

岡山学院大学

学校教育法施行規則第 172 条 2 に基づき、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表します。

一 大学の教育研究上の目的に関すること (1 号関係)

デジタル生活学部フードマネジメント学科

本学は、教育基本法、学校教育法および大学設置基準により、高等学校基礎教育の上に一般の学術文化の研究を行なうとともに、我が国の少子高齢化時代に対応する栄養管理の専門教育に重きをおく大学教育を施し、よき社会人として時代の進運に応じ、Society 5.0 で実現する地域社会の指導者たるの人材の育成するをもって目的とする。

教育目標

デジタル生活学部フードマネジメント学科では数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士を育てるために次の教育目標を掲げている。

- ①数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた、高梁川流域圏で活躍する管理栄養士の養成
- ②生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- ③疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- ④豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- ⑤食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
- ⑥学校における食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を修得し、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場で生かすことができる栄養教諭の育成

卒業後の管理栄養士の将来像として、次のフードビジネスアントレプレナーとなる次世代フードビジネスアントレプレナー養成コース、フードビジネス人材となる次世代フードビジネス人材養成コース、更に、次世代の管理栄養士となる次世代管理栄養士養成コースを設ける。

○次世代フードビジネスアントレプレナー養成コース

下記の科目を修めることで、様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していくアントレプレナーシップ精神を身に付いた次世代の管理栄養士「フードビジネスアントレプレナー」になり高梁川流域圏の活性化に貢献する。卒業後高梁川流域圏の市町で起業且つ所定のプロセスに則り審議を経て合格した者に対し、起業運営資金最大 100 万円を助成する。

【デジタル生活人材養成科目】

消費者行動論、地域活性化論、高梁川流域圏の活性化（倉敷市連携授業）、ICT リテラシーⅡ、データサイエンスⅠ、データサイエンスⅡ、応用数学（食とビジネス）、情報数学Ⅰ

(統計学)、フード・ビジネス経営、フードテックと実践、プレゼンテーション

【専門科目】

栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、フードスペシャリスト必修・選択科目

○次世代フードビジネス人材養成コース

下記の科目を修めることで、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルを身に付けた次世代の管理栄養士「フードビジネス人材」になる。卒業後高梁川流域圏の市町にフードビジネス人材の正社員として 3 年間就業且つ所定のプロセスに則り審議を経て合格した者に対し、岡山学院大学キャリアプラン応援金として最大 40 万円を助成する。

【デジタル生活人材養成科目】

消費者行動論、地域活性化論、高梁川流域圏の活性化（倉敷市連携授業）、ICT リテラシーⅡ、プログラミング、データサイエンスⅠ、データサイエンスⅡ、応用数学（食とビジネス）、情報数学Ⅰ（統計学）、フード・ビジネス経営、フードテックと実践、英語Ⅰ、プレゼンテーション

【専門科目】

栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、フードスペシャリスト必修・選択科目

○次世代管理栄養士養成コース

下記の科目を修めることで、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルを身に付けた次世代の管理栄養士になる。管理栄養士国家試験に 140 点以上を獲得且つ卒業後管理栄養士などの専門職として 3 年間就業した者に対し、岡山学院大学キャリアプラン応援金として 40 万円を助成する。

【デジタル生活人材養成科目】

ICT リテラシーⅠ、ICT リテラシーⅡ、データサイエンスⅠ、データサイエンスⅡ、応用数学（食とビジネス）、情報数学Ⅰ（統計学）、英語Ⅰ、プレゼンテーション、キャリアガイダンス

（管理栄養士）

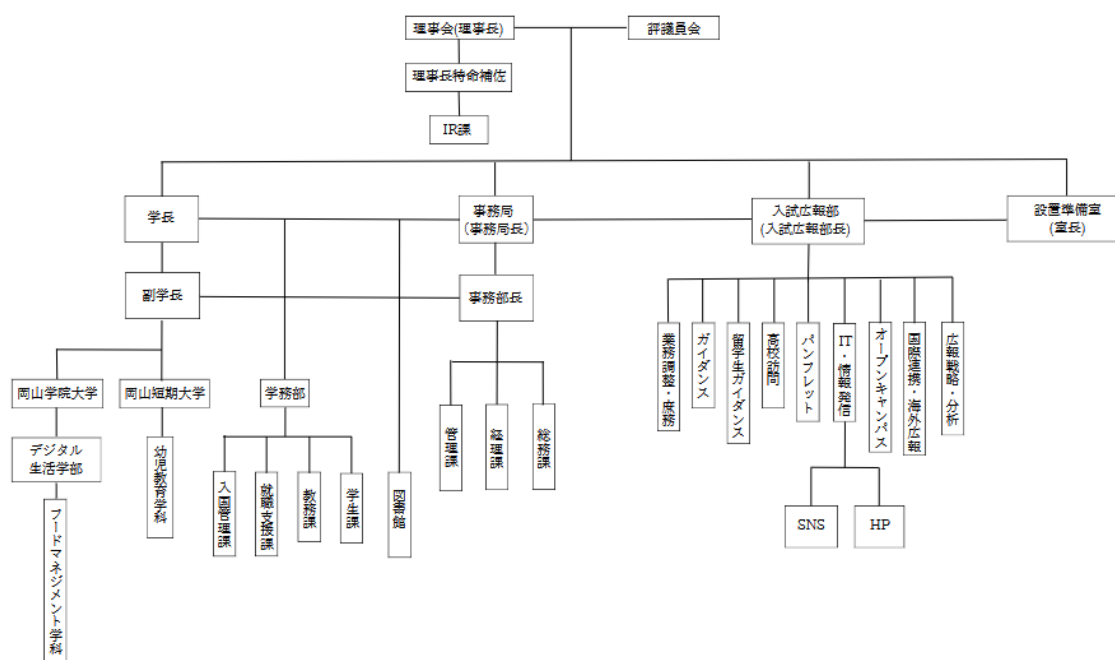
【専門科目】

栄養士必修科目、管理栄養士必修科目

※ 「食塩の過剰摂取」、「若年女性のやせ」、「経済格差に伴う栄養格差」等の栄養課題や環境課題を重大な社会課題として捉え、産学官等の連携・協働により、誰もが自然に健康になれる食環境づくりを展開し、日本はもとより、世界の人々の健康寿命の延伸、活力ある持続可能な社会の実現を目指すことを目的とする。

「食環境づくり」とは、人々がより健康的な食生活を送れるよう、人々の食品（食材、料理、食事）へのアクセスと情報へのアクセスの両方を、相互に関連させて整備していくことをいう。

二 教育研究上の基本組織に関すること (2号関係) (令和8年5月1日現在)



三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること (3号関係)

専任教員数(令和8年5月1日現在) (人)

岡山学院大学

学部	学科	教授	准教授	講師	助教	計
デジタル生活学部	フードマネジメント学科	10	3	6	0	19

岡山学院大学 教員が有する学位及び業績など

各教員が有する学位及び業績

教員名	佐藤幸枝	学位 資格等	学士 管理栄養士免許 介護支援専門員 健康咀嚼指導士 在宅管理栄養士 日本慢性期医療協会「栄養サポートチーム研修会 NST 資格」 JDA-DAT(日本栄養士会災害支援チームリーダー)	職名	教授
-----	------	-----------	--	----	----

担当科目	アクティブラーニングⅡ、給食経理管理論Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習事前事後、給食経営管理臨地実習Ⅰ・Ⅱ、総合演習	
専門分野	摂食嚥下リハビリテーション	
最終学歴	昭和 56 年 3 月	同志社女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻課程卒業
これまでの主な経歴	昭和 56 年 4 月 昭和 58 年 4 月 平成 13 年 12 月 平成 30 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 6 年 4 月 令和 7 年 4 月	(株)日食入社 栄養食品アドバイザー(昭和 58 年 3 月まで) 明治製菓(株)栄養アドバイザー(昭和 60 年 12 月) 社会福祉法人薫風会 特別養護老人ホームみどり荘 管理栄養士主任(平成 30 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科専任講師(令和 4 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科専任准教授(令和 6 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科専任教授 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科専任教授 学科長(現在に至る)
これまでの主な研究業績	(著書) 冷凍保存でかんたん嚥下食 共著 (その他) 1. 給食経営管理における集団給食の向上を目指して 2. 摂食嚥下機能の向上における給食の役割 3. 給食管理の品質を向上するためには 4. 給食経営管理における効率について 5. 給食経営管理実習における献立内容の検討 6. 給食管理のなかでの高齢者の食べたいを支える仕組みづくり	
学会及び社会における活動等	日本静脈経腸栄養学会、摂食嚥下リハビリテーション学会、日本在宅栄養管理学会、日本人間健康栄養協会 倉敷市長表彰(栄養改善事業功労) 岡山県保健福祉部長表彰(栄養改善事業功労) 岡山県知事表彰(栄養改善事業功労) 厚生労働大臣表彰(栄養改善事業功労)	

教員名	次田隆志	学位	農学博士	職名	特別専任教授
-----	------	----	------	----	--------

担当科目	食文化論、食料経済、フードコーディネート、食品学総論Ⅰ・Ⅱ、食品学総論実験、食品品質管理論	
専門分野	食品学	
最終学歴	昭和 54 年 3 月	東京大学大学院農学系研究科農芸化学専門課程博士課程修了
これまでの主な経歴	昭和 54 年 4 月	湘北短期大学非常勤講師(栄養化学担当) (昭和55年 3 月まで) 青山学院女子短期大学非常勤講師(栄養学、生活科学実験担当) (昭和 58 年 3 月まで) 京浜女子大学非常勤講師(食品化学、食品化学実験担当) (昭和58年 3 月まで) 東京大学農学部助手(農芸化学実験、農芸化学卒業研究、大学院食品化学特論担当) (昭和60年 3 月まで) 株式会社加ト吉、バイオサイエンス研究室長 (平成 7 年11月まで) 株式会社加ト吉バイオ、取締役研究開発部長(併任) (平成 9 年 5 月まで) 佐賀大学非常勤講師(生物資源利用化学特講担当) 株式会社加ト吉、品質管理室長 (平成 9 年 5 月まで) 岡山女子短期大学(現岡山短期大学)教授 (食品加工学、食品学各論、公衆栄養学担当) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科教授 (食品学各論、食文化論、食品学各論実験Ⅰ・Ⅱ、卒業研究(A), (B) 担当) (現在に至る) 香川大学工学部非常勤講師 (新技術商業化論担当) (平成 16 年 9 月まで)
	昭和 55 年 4 月	
	昭和 57 年 4 月	
	昭和 58 年 4 月	
	昭和 60 年 4 月	
	平成 2 年 5 月	
	平成 7 年 7 月	
	平成 7 年 12 月	
	平成 10 年 4 月	
平成 14 年 4 月		
平成 16 年 4 月		
これまでの主な研究業績	(著書) 1. キチン・キトサンの開発と応用 2. 機能性食品の開発展望 3. Advances in Fisheries Technology and Biotechnology for Increased Profitability. 4. 新食品開発用素材便覧 5. キチン、キトサンハンドブック 6. バイオセパレーションプロセス便覧 7. ゴマの機能と科学 (学術論文) 1. Fractionation and Identification of Volatile Acids and Phenols in the Steam Distillate of Rice Bran. (査読付) 2. Volatile Components in the Steam Distillate of Rice Bran. Identification of Neutral and Basic Compounds. (査読付) 3. GC and GC-MS Analysis of Headspace Volatiles by Tenax GC Trapping Techniques (査読付) 4. Volatile Components after Cooking Rice Milled to Different Degrees. (査読付) 5. Changes of Headspace Volatile Components of Soybeans during Roasting. (査読付) 6. Changes of Volatile Flavor Components of Soybeans during Roasting. (査読付) 7. Cooking Flavor and Texture of Rice Stored under Different Conditions. (査読付) 8. Effect of Parboiling on Texture and Flavor of Cooked Rice. (査読付) 9. 米の貯蔵中の変化に及ぼすパーボイル加工の影響(査読付) 10. キチン・キトサンによる作物の生長促進効果, 第1報 生長促進とその作用性(査読付) 11. キチン・キトサンによる作物の生長促進効果 第2報 各種作物への栽培適用性(査読付) 12. 微生物・酵素利用によるキチン・キトサンおよびそのオリゴ糖の生産技術の開発(査読付) 13. Hypocholesterolemic Effect of Chitosan in Adult Males. (査読付) 14. Effect of Dietary Chitosan on Faecal Microbiota and Faecal Metabolites of Humans. (査読付) 15. ゲル化キトサンのコレステロール改善作用(査読付) 16. キトサン添加即席粥の血中コレステロール改善作用(査読付) 17. キトサンの過剰摂取における糞便性状への影響ならびにヒトにおける消化吸収性(査読付) 18. グルコサミンの食品添加における安定性(査読付)	

	19. 黒豆煮汁の機能性解析とヒト試験 20. 倉敷市老人クラブ連合会と提携した「有喜・栄養長寿教室」と管理栄養士教育における位置づけ(査読付) 21. 倉敷市老人クラブ構成員における健康・栄養調査(査読付) 22. 本学学生およびその家族における、年中行事の認知状況と行事食の認知・経験状況の解析(査読付) 23. 本学学生の家庭における雑煮の実態調査(査読付) 24. 苦味・渋味食品の喫食とBMIとの関係(査読付)
学会及び社会における活動等	日本栄養・食糧学会 日本調理科学会

教員名	清水憲二	学位	理学博士	職名	特別専任教授
-----	------	----	------	----	--------

担当科目	基礎生物学、運動栄養学、解剖生理学Ⅰ、運動生理学、解剖生理学実験Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ	
専門分野	生化学、分子遺伝学、分子腫瘍学 癌の遺伝子科学、癌遺伝子、癌抑制遺伝子、癌分子疫学	
最終学歴	昭和47年12月 昭和51年10月	九州大学大学院理学研究科博士課程中途退学 理学博士（九州大学）
これまでの主な経歴	昭和48年1月 昭和55年8月～昭和58年3月 昭和58年4月 昭和63年2月 昭和63年8月 平成6年4月 平成13年4月 平成15年4月 平成24年3月 平成24年4月	九州大学理学部分子遺伝学講座・助手（分子遺伝学） 米国NY州Cold Spring Harbor（コールドスプリングハーバー）研究所・客員研究員（研究所長：J.D. Watson 博士、主任：M. H. Wigler 博士） 九州大学理学部分子遺伝学講座・助手（復職） 九州大学理学部分子遺伝学講座・助教授（分子遺伝学） 九州大学医学部第一生化学教室・助教授（生化学） 岡山大学医学部分子細胞医学研究施設、病態遺伝子解析部門・教授（医学生物学、分子遺伝学、生化学） 岡山大学大学院医歯（薬）学総合研究科、腫瘍制御学講座・教授（大学設置審議会の審査結果：大学院教授として〇合。） 岡山大学自然生命科学研究支援センター・（副）センター長（併任） 岡山大学教授を定年退職（名誉教授：引き続き、特命教授を兼任） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績	(著書) (15件から抜粋) 1 医学研究における組換えDNA実験Ⅲ 2 Oncogenes and Cancer 3 GTP結合蛋白質 4 標準分子医化学 5 癌化のメカニズムを解く (学術論文) (2000年以前：52件から抜粋) 1 5'-3' Exonucleases of bacteriophage T4. (査読付) 2 Introduction of an active enzyme into permeable cells of Escherichia coli : Acquisition of ultraviolet light resistance by uvr mutants on introduction of T4 endonuclease V. (査読付) 3 Human tumor -derived cell lines contain common and different transforming genes. (査読付) 4 Isolation and preliminary characterization of a human transforming gene from T24 bladder carcinoma cells. (査読付) 5 Activation of the T24 bladder carcinoma transforming gene is linked to a single aminoacid change. (査読付) 6 Isolation and preliminary characterization of the transforming gene of a human neuroblastoma cell line. (査読付) 7 Three human transforming genes are related to the viral <i>ras</i> oncogenes. (査読付) 8 Structure of the K- <i>ras</i> gene of the human lung carcinoma cell line Calu-1. (査読付)	

	付) 9 Structure and activation of the N-<i>ras</i> gene. (査読付) 10 Molecular cloning of an activated human oncogene, homologous to <i>v-raf</i>, from primary stomach cancer. (査読付) 11 Mutations of E2F-4 trinucleotide repeats in colorectal cancer with microsatellite instability. (査読付) 12 Close correlation between mutations of E2F4 and hMSH3 genes in colorectal cancers with microsatellite instability. (査読付) 13 Genomic Structure of the Human ING1 Gene and Tumor-specific Mutations Detected in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas. (査読付) 2001 年以後 14 A Novel WD40 Repeat Protein, WDC146, Highly Expressed during Spermatogenesis in a Stage-specific Manner. (査読付) 15 Effect of naturally occurring E2F-4 alterations on transcriptional activation and proliferation in transfected cells. (査読付) 16 High frequency of low-level microsatellite instability in early colorectal cancer. (査読付) 17 Reduced expression of the REIC/Dkk-3 gene by promoter -hypermethylation in human tumor cells. (査読付) 18 Prognostic value of loss of heterozygosity around three candidate tumor suppressor genes on chromosome 10q in astrocytomas. (査読付) 19 Allelic loss and reduced expression of the ING3, a candidate tumor suppressor gene at 7q31, in human head and neck cancers. (査読付) 20 Significant correlation of the SCN1A mutations and severe myoclonic epilepsy in infancy. (査読付) 21 Genetic alterations of the ornithine decarboxylase gene in human colorectal cancers. (査読付) 22 Allelic imbalance and microsatellite instability in plasma DNA released from polyclonal pancreatic adenocarcinoma. (査読付) 23 E2F-4 mutation in hereditary non-polyposis colorectal cancer. (査読付) 24 A Case of Pancreatic Adenocarcinoma with Novel K-ras Mutation and Long Term survival. (査読付) 25 Gene silencing of the tyrosine phosphatase SHP1 gene by aberrant methylation in leukemias/lymphomas. (査読付) 26 Smoke exposure, histologic type and geography-related differences in the methylation profiles of non-small cell lung cancer. (査読付) 27 Genome-wide analyses on loss of heterozygosity in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付) 28 Cryptic CTL epitope on a murine sarcoma Meth A generated by exon extension as a novel mechanism. (査読付) 29 Detection of codon 61 point mutations of the K-ras gene in lung and colorectal cancers by enriched PCR. (査読付) 30 Splicing isoform of SYT-SSX fusion protein accelerates transcriptional activity and cell proliferation. (査読付) 31 Paroxysmal movement disorders in severe myoclonic epilepsy in infancy. (査読付) 32 Single nucleotide polymorphism in fibroblast growth factor 4 at codon 388 is associated with prognosis in high-grade soft tissue sarcoma. (査読付) 33 Is phenotype difference in severe myoclonic epilepsy in infancy related to SCN1A mutants? (査読付) 34 Establishment and characterization of a biphasic synovial sarcoma cell line, SYO-1. (査読付) 35 Positive correlation between allelic loss at chromosome 14q24-31 and poor prognosis of patients with renal cell carcinoma. (査読付) 36 Tumor-specific exon creation of the HELLS /SMARCA6 gene in non-small cell lung cancer. (査読付) 37 CYP2C polymorphisms, phenytoin metabolism and gingival overgrowth in epileptic
--	--

	subjects. (査読付) 38 Prevalent hyper-methylation of the CDH13 gene promoter in malignant B cell lymphomas. (査読付) 39 Loss of heterozygosity on chromosome 10q associated with malignancy and prognosis in astrocytic tumors, and discovery of novel loss regions. (査読付) 40 SYT, a partner of SYT-SSX oncoprotein in synovial sarcomas, interacts with mSin3A, a component of histone deacetylase complex. (査読付) 41 Significant growth suppression of synovial sarcomas by the histone deacetylase inhibitor FK228 in vitro and in vivo. (査読付) 42 Genetic and epigenetic alterations of BRG1 promotes oral cancer development. (査読付) 43 Fine deletional mapping of chromosome 4q22-35 region in oral cancer. (査読付) 44 Single nucleotide polymorphisms in the EXO1 gene and risk of colorectal cancer in a Japanese population. (査読付) 45 Frequent deletion and down-regulation of ING4, a candidate tumor suppressor gene at 12p13, in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付) 46 Single nucleotide polymorphism at codon 133 of the RASSF1 gene is preferentially associated with human lung adenocarcinoma risk. (査読付) 47 Identification of a candidate tumor suppressor gene RHOB1 located at a novel allelic loss region 10q21 in head and neck cancer. (査読付) 48 EP2/EP4-mediated suppression of antigen-specific human T cell responses by prostaglandin E2. (査読付) 49 Single nucleotide polymorphism of the AXIN2 gene is preferentially associated with human lung cancer risk in a Japanese population. (査読付) 50 Multiple splicing variants of Naf1/ABIN-1 transcripts and their alterations in hematopoietic tumors. (査読付) 51 Role of prostaglandin D2 and E2 terminal synthases in chronic rhinosinusitis. (査読付) 52 High frequent allelic loss of chromosome 6q16-23 in osteosarcoma: Involvement of cyclin C in osteosarcoma. (査読付) 53 Fine deletion mapping of chromosome 2q21-37 shows three preferentially deleted regions in oral cancer. (査読付) 54 Oesophageal squamous cell cancer may develop within a background of accumulating DNA methylation in normal and dysplastic mucosa. (査読付) 55 Single nucleotide polymorphism in the RAD18 gene and risk of colorectal cancer in Japanese population. (査読付) 56 Loss or down-regulation of HLA class I expression at the allelic level in freshly isolated leukemic blasts. (査読付) 57 Comprehensive loss of heterozygosity analysis and identification of a novel hotspot at 3p21 in salivary gland neoplasms. (査読付) 58 The impact of epidermal growth factor receptor gene status on gefitinib-treated Japanese patients with non-small-cell lung cancer. (査読付) 59 T75M-KCNJ2 mutation causing Andersen-Tawil syndrome enhances inward rectification by changing Mg²⁺ sensitivity. (査読付) 60 The association between RAD18 Arg302Gln polymorphism and the risk of human non-small-cell lung cancer. (査読付) 61 Down-regulation of ING3 mRNA Expression predicts poor prognosis in head and neck cancer. (査読付) 62 Decreased expression of the SIN3A gene, a candidate tumor suppressor, located at the prevalent allelic loss region 15q23 in non-small cell lung cancer. (査読付) 63 Involvement of EphA2 in head and neck squamous cell carcinoma: mRNA expression, loss of heterozygosity and immuno-histochemical studies. (査読付) 64 Expression and mutation analysis of epidermal growth factor receptor (EGFR) in head and neck squamous cell carcinoma. (査読付) 65 Deletion mapping of chromosome 4q22-35 and identification of four frequently
--	--

	deleted regions in head and neck cancers. (査読付) 66 Deletion at Dickkopf (dkk)-3 locus (11p15.2) is related with lower lymph node metastasis and better prognosis in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付) 67 Lack of B-RAF mutations in head and neck squamous cell carcinoma. (査読付) 68 Rasmussen encephalitis associated with SCN1A mutation. (査読付) 69 Loss of heterozygosity at chromosome 14q is associated with poor prognosis in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付) 70 The allelic distribution of a single nucleotide polymorphism in the PDCD5 gene locus of Japanese non-small cell lung cancer patients. (査読付) 71 Fine deletion analysis of 1p36 chromosomal region in oral squamous cell carcinomas. (査読付) 72 Down-regulation of TESTIN and its association with previous cancer history and poor survival in head and neck squamous cell carcinomas. (査読付) 73 Frequent deletion of ING2 locus at 4q35.1 associates with advanced tumor stage in head and neck squamous cell carcinoma. (査読付) 74 T-lymphocyte maturation-associated protein gene as a candidate metastasis suppressor for head and neck squamous cell carcinomas. (査読付) 75 Increased mRNA expression of ADAMTS metalloproteinases in metastatic foci of head and neck cancer. (査読付) 76 Frequent Allelic Loss of Dkk-1 Locus (10q11.2) is Related with Low Distant Metastasis and Better Prognosis in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas. (査読付) 77 MET gene amplification or EGFR mutation activate MET in lung cancers untreated with EGFR tyrosine kinase inhibitors. (査読付) 78 REIC/Dkk-3 stable transfection reduces the malignant phenotype of mouse prostate cancer RM9 cells. (査読付) 79 Accumulation of aberrant CpG hypermethylation by Helicobacter pylori infection promotes development and progression of gastric MALT lymphoma. (査読付) 80 Loss of heterozygosity at the 9p21-24 region and identification of BRM as a candidate tumor suppressor gene in head and neck squamous cell carcinoma. (査読付) 81 Expression and Mutation Analysis of Her2 in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. (査読付) 82 Missense polymorphisms of PTPRJ and PTPN13 genes affect susceptibility to a variety of human cancers. (査読付) 83 Multi-step aberrant CpG island hyper-methylation is associated with the progression of adult T-cell leukemia/lymphoma. (査読付) 84 Tumor-specific mutation and downregulation of ING5 detected in oral squamous cell carcinoma. (査読付) 85 Identification of direct targets for the miR-17-92 cluster by proteomic analysis. (査読付) 86 Liposomal Delivery of MicroRNA-7-Expressing Plasmid Overcomes Epidermal Growth Factor Receptor -Tyrosine Kinase Inhibitor-Resistance in Lung Cancer Cells. (査読付)
学会及び社会における活動等	Robertson Research Fund Award ロバートソン研究財団奨励賞 (NY州, アメリカ合衆国) 日本分子生物学会 庶務幹事 日本癌学会 評議員、編集委員 日本がん分子疫学研究会 常任幹事

教員名	山田治来	学位等	医師・博士(医学)	職名	特別専任教授
-----	------	-----	-----------	----	--------

担当科目	病理学、解剖生理学Ⅱ		
専門分野	内科学・神経内科学	片頭痛の食事療法	
最終学歴	平成2年3月 平成16年3月	香川医科大学医学部医学科（現 香川大学医学部医学科）卒業 川崎医科大学大学院医学研究科 修了 博士(医学)学位取得(甲 第460号)	
これまでの主な経歴	平成3年5月 平成5年4月 平成16年4月 平成18年4月 平成22年12月 平成23年4月 平成28年12月 平成31年4月 令和4年4月	川崎医科大学附属病院 内科 研修医（平成5年3月まで） 川崎医科大学 内科学（神経）臨床助手（平成12年3月まで） 川崎医科大学附属病院 内科（神経）シニアレジデント 川崎医科大学附属川崎病院 内科 副医長（平成18年3月まで） 川崎医科大学附属川崎病院 内科 医長（平成28年3月まで） 川崎医科大学 総合内科学Ⅰ 講師（令和4年3月まで） 川崎医科大学 総合内科学Ⅰ 講師 臨床実習指導および講義担当（現在に至る） 川崎医療短期大学 看護科 非常勤講師 臨床医学内科Ⅲ（神経）講義担当 川崎医科大学総合医療センター 内科 医長（令和4年3月まで） 川崎医療福祉大学 保健看護学部 大学院 非常勤講師 兼務（令和4年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授	
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 脳卒中と生活習慣—脳卒中のリスクファクター—川崎病院発 今日から予防 生活習慣病 ～健康長寿の道～（山田剛太郎監修）分担執筆 2. 糖尿病の合併症—神経障害—川崎病院発 今日から予防 生活習慣病 ～健康長寿の道～（山田剛太郎監修）分担執筆 （学術論文） 【以下、原著共著 筆頭著者】 3. Pupil-sparing 型の動眼神経部分麻痺を呈した中脳梗塞の1例 4. ベーチェット病の経過中に急速な意識障害を呈し、MRI にて多発性円形病巣を認めた結核症の1剖検例 5. Wilson 病の頭部 MRI 6. 著しい精神症状で発症し急激に意識障害に陥るもほぼ完全に回復した原因不明の脳炎症例 7. 重症筋無力症における舌溝 8. 非定型的な trigeminal neuralgia を呈し、MRI で病巣を確認し得た多発性硬化症と考えられる1例 9. Notch3 遺伝子に新たなミスセンス変異をみとめた CADASIL(Cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy) の1例—禿頭と椎間板ヘルニアの合併について— 10. トリカブト中毒の1例 11. 眼球運動障害のみを呈した Fisher 症候群の1例 12. Crowned dens 症候群の CT 所見 13. 非アルコール性脂肪性肝炎の経過中に筋強直性ジストロフィーと診断された1例 14. 透析患者に発症したアシクロビル脳症の1例 15. 脊髄梗塞の1例 16. 髄液より莢膜型 23A肺炎球菌が検出された髄膜炎の1例 17. A case of myasthenia gravis in which the interval to repeated exacerbation was prolonged by L-carnitine 18. 髄膜炎尿閉症候群の1例 【以下、原著（共著 筆頭著者以外）】 19. 歯状核赤淡蒼球ルイ 体萎縮症（DRPLR）の MRI 所見 20. 頭部 MRI で異常を認めた Kearns-Sayre-Shy 症候群の1例 21. 経過中脳梗塞を併発した、肺炎球菌性髄膜炎の1例 22. 足背の浮腫出現が契機で診断し得た Churg-Strauss 症候群の1例 23. Vertiginous epilepsy の1例 24. MRI 拡散強調画像が有効であった急性期脳梗塞の6例		

	25. <シンポジウムⅡ-4>脳血管障害診療の進歩 CADASIL：本邦における CADASIL ならびに類似疾患の臨床解析 26. 急性横断性脊髄障害で発症し、白質ジストロフィー様の画像を呈した血管内悪性リンパ腫症の 1 剖検例 27. Mutations of Notch3 gene in non-Caucasian patients with suspected CADASIL syndrome 28. 脳卒中の病型・病巣別リハビリテーション心原性脳塞栓症 29. Overexpression of P104L mutant caveolin-3 in mice develops hypertrophic cardiomyopathy with enhanced contractility in association with increased endothelial nitric oxide synthase activity. 30. Reduced amplitude of sural nerve sensory action potential in PARK2 patients. 31. もの忘れ外来開設後 1 年の現状報告 32. 球脊髄性筋委縮症（ポリグルタミン病）の 1 剖検例 33. Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus Complicated with a Life-threatening Electrolyte Abnormality and Abnormal Electrocardiogram Findings 【以下、学会発表】 34. 眼球運動障害のみを呈した Fisher 症候群の 1 例 35. 片頭痛に対する凍結乾燥豆腐（高野豆腐）療法の効果の検討 36. Crowned dens 症候群の 1 例 37. Crowned dens 症候群の 1 例 38. NASH の経過中に筋強直性ジストロフィーと診断された 1 例 39. 透析患者に発症したアシクロビル脳症の 1 例 40. 髄液より莢膜型 23A 肺炎球菌が検出された髄膜炎の 1 例 41. 寛解と憎悪を繰り返し、L-carnitine 投与により憎悪までの期間が延長した重症筋無力症の 1 例
学会及び社会 における活動 等	日本内科学会、日本神経学会、日本頭痛学会、日本神経治療学会、日本神経感染症学会

教員名	妹尾良子	学位 資格等	準学士 栄養士免許 管理栄養士免許	職名	特別専任教授
-----	------	-----------	-------------------------	----	--------

担当科目	アクティブラーニングⅡ、応用栄養学、応用栄養学実習、栄養アセスメント、総合演習		
専門分野	応用栄養学、給食経営管理論		
最終学歴	昭和 46 年 3 月	岡山県立短期大学食物科卒業	
これまでの主な経歴	昭和 47 年 4 月 平成 9 年 9 月 昭和 54 年 4 月 昭和 56 年 12 月 平成 9 年 10 月 平成 28 年 3 月 平成 28 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 3 年 3 月 令和 3 年 4 月 令和 5 年 3 月 令和 5 年 4 月 令和 6 年 4 月 令和 7 年 4 月	下津井病院入社 下津井病院退社 児島公民館、郷内公民館、本荘公民館料理講座講師兼務 児島公民館、郷内公民館、本荘公民館料理講座講師退任 日清医療食品（株）中国支店 岡山営業所入社（管理部栄養士インストラクター） 岡山学院大学 講師 定年退職 東北女子大学 家政学部 健康栄養学科 給食経営管理担当 准教授 東北女子大学 家政学部 健康栄養学科 給食経営管理担当 教授 東北女子大学 家政学部 健康栄養学科 教授 退職 柴田学園大学 生活創生学部 健康栄養学科 給食経営管理担当 特任教授 柴田学園大学 生活創生学部健康栄養学科 退職 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 非常勤講師 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 特任教授 岡山学院大学 デジタル生活学部 フードマネジメント学科 特任教授（現在に至る）	
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 「献立作成の基本と実践」 講談社 2. 「献立作成の基本と実践 第2版 3. 「家族でかこむ週間メニュー」 No.1 生活習慣病予防は楽しい食卓から 4. 青森生協 DVD 「すぐわかる Active cook で健康づくり」 5. 「家族でかこむ週間メニュー」 No.2 生活習慣病予防は楽しい食卓から 6. 「家族でかこむ週間メニュー」 No.3 生活習慣病予防は楽しい食卓から 7. 「家族でかこむ週間メニュー」 No.3 老化予防は食生活の予防から 8. 「つくる気になるメニュー集」 No.1 タンパク質＋やさしい＝健康 9. 「つくる気になるメニュー集」 No.2 コツコツ毎日カルシウム （学術論文等） 1. 倉敷市老人クラブ連合と提携した「有喜・栄養長寿教室」と管理栄養士教育における位置づけ（共同・学校法人原田学園岡山学院大学岡山短期大学紀要） 2. 倉敷市老人クラブ連合会と岡山学院大学の連携による現場に即応する管理栄養士の育成（共同・学校法人原田学園岡山学院大学岡山短期大学紀要） 3. 食塩の健康科学（共同・東北女子大学 紀要 No. 57） 4. 食生活自己チェック表を用いた評価方法について（共同・東北女子大学 紀要 No. 57） 5. 青森県の子育て世帯を対象とした健康づくりの食事スタイルの研究―食行動の変容と維持に必要な支援について―（共同・東北女子大学 紀要 No. 59） 6. 食生活自己チェック表使用時のサポート方法の検討―食行動の変容と維持に必要な支援について―（共同・東北女子大学 紀要 No. 59）		
学会及び社会における活動等	（所属学会）日本栄養改善学会 （社会活動） 1. 倉敷腎友会 透析患者の料理教室 2. 健康づくり担当者養成研修 青森地区 健やか隊員育成プログラム 3. 食と体内時計を基礎とした健康づくりのための啓発事業 4. 青森県生協連弘前地区健やか隊員育成プログラム 5. 城南保育園 親子ふれあいデー 6. 2019 年度青森県生活協同組合連合会 青森地区健やか隊員育成研修会（共同） 7. 第 6 回日本栄養改善学会東北支部学術総会（共同） 8. 浪岡高校父母と教師の会（共同） 9. 板柳町教育委員会生涯学習課「いきいき大学」研修会		

10. 食と農を楽しむイベント「第46回生活技術発表会展」

教員名	稲井玲子	学位 資格等	博士（農学） 修士（栄養学修士） 食品衛生管理者・監視員 栄養士 管理栄養士 特定保健指導実践者育成 研修 修了	職名	特別専任教授
-----	------	-----------	--	----	--------

担当科目	公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学Ⅱ、公衆栄養学実習、総合演習、公衆栄養臨地実習	
専門分野	公衆栄養、栄養教育論	
最終学歴	平成2年3月	徳島大学大学院栄養学研究科修士課程修了
これまでの主な経歴	昭和53年4月 平成元年4月 平成2年4月 平成3年4月 平成3年4月 平成5年4月 平成6年4月 平成8年4月 平成11年4月 平成12年9月 平成13年4月 平成13年8月 平成14年4月 平成14年4月	医療法人弘仁会共立病院（愛媛県西条市）管理栄養士 （2年目より主任として勤務）（昭和61年12月まで） 徳島県医師会看護学校非常勤講師（「栄養学」担当）（平成2年3月まで） 鈴峯女子短期大学食物栄養科講師（平成8年3月まで） （「栄養指導論」「栄養指導論実習」「栄養学各論実習」「臨床栄養学実習」「給食管理」「給食管理校内実習」「給食管理校外実習（年間学生1人3回3週実施）」「解剖生理学」「解剖生理学実験」「食事文化論」「食物学」「食生活論」「生活科学（一般教養）」担当） 広島YMCA健康福祉専門学校非常勤講師 （「家政学」「健康と栄養」「家政学実習」それぞれの科目を一部オムニバス、一部集中で担当）（平成23年4月まで） 広島大学医学部総合薬学科薬効解析講座研究生（平成5年3月まで） 広島大学医学部内科学第二講座研究生（平成15年9月まで） 広島赤十字看護専門学校非常勤講師 （「栄養学」「臨床栄養学」オムニバスで半分ずつ担当）（平成8年3月まで） 鈴峯女子短期大学食物栄養科助教授 （「栄養指導論」「栄養指導論実習」「栄養学各論実習」「給食管理」「給食管理校内実習」「給食管理校外実習（年間学生1人3回3週実施）」「食生活論」「病理学」「特別研究 担当）（平成13年3月まで） （有）ネス非常勤取締役（平成27年3月まで） 安田女子短期大学非常勤講師（「調理学」担当）（平成13年3月まで） 鈴峯女子短期大学食物栄養科教授（平成16年3月まで） （「栄養指導論Ⅰ」「栄養指導論Ⅱ」「栄養指導論実習Ⅰ」「栄養学演習」「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」「調理学実習Ⅲ」「給食管理」「給食管理校内実習」「給食管理校外実習」「栄養情報処理論」「栄養情報処理演習Ⅰ」 公衆栄養学特論Ⅰ」「実践栄養学特論Ⅰ」「実践栄養学特論実習」「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」「介護食事演習」「介護食事論」「栄養指導論」担当）（平成16年3月まで） 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会 および厚生労働省における教員組織審査において、長崎国際大学健康管理学部の特任教授として「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「栄養教育論Ⅲ」「栄養教育論実習Ⅰ」「栄養教育論実習Ⅱ」「臨床栄養学Ⅳ」「保健科教育」の資格有りとの判定を受く。 長崎国際大学健康管理学部非常勤講師 （「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「保健科教育」担当）（平成16年3月まで） 鈴峯女子短期大学専攻科栄養専攻審査における大学評価・学位授与機構審査適格教員を受く （〔公衆栄養学特論Ⅰ〕〔公衆栄養学特論実習〕〔栄養情報処理論〕〔栄養

		情報処理演習Ⅰ」「栄養情報処理演習Ⅱ」「実践栄養学特論演習」「実践栄養学特論Ⅰ」「実践栄養学特論実習」「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」) 鈴峯女子短期大学専攻科栄養専攻教授 (「公衆栄養学特論Ⅰ」「栄養情報処理論」「栄養情報処理演習Ⅰ」「実践栄養学特論演習」「実践栄養学特論Ⅰ」「実践栄養学特論実習」 特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」担当)(平成16年3月まで) 鈴峯女子短期大学食物栄養科教授 (「栄養指導論Ⅰ」「栄養指導論Ⅱ」「栄養指導論実習Ⅰ」「栄養学演習」「調理学実習Ⅲ」「特別研究」担当)(平成16年3月まで) 平成14年4月 平成16年4月 鈴峯女子短期大学食物栄養学科非常勤講師(平成17年3月まで) 鈴峯女子短期大学専攻科栄養専攻非常勤講師(「栄養情報処理演習Ⅰ」「栄養情報処理演習Ⅱ」「実践栄養学特論演習」「実践栄養学特論Ⅰ」「実践栄養学特論実習」担当)(平成17年3月まで) 平成16年9月 平成17年4月 ひろしま駅弁当(株)給食事業部栄養顧問(平成23年9月まで) 名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科教授(平成26年3月まで) (「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「栄養教育論演習」「栄養教育論実習Ⅰ」「栄養教育論実習Ⅱ」担当) 平成17年4月 福山平成大学 非常勤講師(「健康スポーツ栄養」担当)(平成29年3月まで) 平成17年4月 鈴峯女子短期大学専攻科栄養専攻非常勤講師(「栄養情報処理演習Ⅰ」「栄養情報処理演習Ⅱ」「実践栄養学特論演習」「実践栄養学特論Ⅰ」「実践栄養学特論実習」担当)(平成18年6月まで) 平成18年8月 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会教員組織審査において、名古屋経済大学大学院人間生活科学研究科管理栄養学専攻(修士課程)の専任教授として、「栄養学研究」、「栄養教育学研究」、「管理栄養実践研究」それぞれM可の判定を受く。(なお、当該専攻名については、設置審査過程で専攻名称の変更を検討するよう改善意見を受け、その後、「栄養管理学専攻」と変更した。) 平成19年1月 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会教員組織審査において、名古屋経済大学大学院 人間生活科学研究科の栄養管理学専攻(修士課程)の専任教授として、「栄養管理実践研究」M可の判定を受く。 平成19年4月 名古屋経済大学大学院人間生活科学研究科栄養管理学専攻(修士課程)専任教授(「栄養学研究」「栄養教育学研究」「栄養管理実践研究」担当)(平成26年3月) 平成19年4月 名古屋経済大学人間生活科学部幼児保育学科(「小児栄養」担当)(平成25年3月まで) 平成19年4月 広島YMCA ビジネス専門学校非常勤講師(「公衆衛生」担当)(平成21年3月まで) 平成20年1月 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会教員組織審査において、名古屋経済大学 大学院人間生活科学研究科栄養管理学専攻(修士課程)の専任教授として「給食経営管理研究」M可、「栄養管理特別研究」M合の判定を受く。 平成21年4月 名古屋経済大学大学院人間生活科学研究科教授会において、栄養管理学専攻(修士課程)専任教授として「栄養管理特別研究」○合の判定を受く。 平成23年4月 岡山大学医学部公衆衛生学教室客員研究員(平成24年3月まで) 平成25年4月 名古屋経済大学大学院人間生活科学研究科教 主任となる。(平成26年3月まで) 平成26年4月 名古屋経済大学 名誉教授の称号を受ける。 平成26年4月 徳島文理大学 人間生活学部 食物栄養学科 教授(平成28年3月まで) 担当科目「公衆栄養Ⅰ」「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「食品衛生学」「特別研究」 平成28年4月 高知県立大学 健康栄養学部 健康栄養学科 教授(令和3年3月) 担当科目「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「栄養教育論Ⅲ」「栄養教育論実習Ⅰ」「栄養教育論実習Ⅱ」「学校栄養教育論Ⅰ」「学校栄養教育論Ⅱ」、学校栄養教育論演習」「教育実習」 令和3年4月 高知県立大学 健康栄養学部 健康栄養学科 特任教授 就任(令和4年3月)
--	--	---

	令和 4 年 4 月 担当科目「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「栄養教育論Ⅲ」「栄養教育論実習Ⅰ」「栄養教育論実習Ⅱ」「学校栄養教育論Ⅰ」「学校栄養教育論Ⅱ」、学校栄養教育論演習」「教育実習」 奈良女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 特任教授 就任(令和 8 年 3 月まで) 担当科目「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「栄養教育論Ⅲ」「栄養教育論実習」「栄養教育実習」「教職実践演習」 博士前期課程担当科目「学校栄養教育特論 A」「学校栄養教育特論 B」 岡山学院大学 デジタル生活学部 フードマネジメント学科 特任教授 就任(現在に至る)
これまでの主な研究業績	(著書) 1. スポーツ栄養と健康づくり (共著) 2. 集団給食施設のための食事管理初版「教科書」(共著) 3. 臨床栄養学 新栄養治療学実習書 Ver. 3 (共著) 4. Sympathy Cooking Ver.1「教科書」 5. 給食管理実習校内実習書「教科書」「編者」 6. 調理科学実験実習書「教科書」「編者」(共著) 7. 栄養指導論実験・実習書「教科書」(共著) 8. 介護福祉士のための栄養と調理「教科書」「編者」(共著) 9. まるごと学ぶ食生活と健康づくり「教科書」(共著) 10. 心とからだの健康 健康概論「教科書」「編者」(共著) 11. 心とからだの健康 子どもの健康科学「教科書」(共著) 12. 集団給食施設のための食事管理第 2 版「教科書」(共著) 13. 栄養科学シリーズ NEXT 栄養指導論「教科書」(共著) 14. 栄養科学シリーズ NEXT 給食管理「教科書」(共著) 15. 栄養学各論「教科書」 (共著) 16. 食品・栄養科学シリーズ 初版栄養指導論「教科書」(共著) 17. 給食の運営と管理「教科書」(共著) 18. ネオエスカ基礎栄養学「教科書」「データ引用」(共著) 19. ネオエスカ応用栄養学 初版「教科書」「データ引用」(共著) 20. 栄養科学シリーズ NEXT 給食経営管理論 初版「教科書」(共著) 21. 応用栄養学 初版「教科書」(共著) 22. ネオエスカ応用栄養学第 2 版「教科書」「データ引用」(共著) 23. ネオエスカ応用栄養学第 3 版「教科書」「データ引用」(共著) 24. 新食品・栄養科学シリーズ 初版 栄養教育論 (共著) 25. ネオエスカ応用栄養学第 4 版「教科書」「データ引用」(共著) 26. 管理栄養士講座臨床栄養学Ⅱ「教科書」(共著) 27. 改訂版応用栄養学「教科書」(共著) 28. 栄養科学シリーズ NEXT 給食経営管理論 第 2 版「教科書」(共著) 29. 管理栄養士講座栄養教育論Ⅰ「教科書」(共著) 30. ネオエスカ応用栄養学改定第 4 版「教科書」「データ引用」(共著) 31. 学校栄養教育概論学校における食の指導「教科書」(共著) 32. PDCA に基づく給食経営管理実習 (共著) 33. 新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論 第 2 版 (共著) 34. テキスト食物と栄養科学シリーズ 8 栄養教育論 初版第 1 版 (共著) 35. ネオエスカ 応用栄養学 第五版 (共著) 36. 新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論 第 3 版 (共著) 37. 改訂 管理栄養士講座臨床栄養学Ⅱ「教科書」(共著) 38. 栄養科学シリーズ NEXT 給食経営管理論 第 3 版「教科書」(共著) 39. 新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論 第 4 版 (共著) 40. 新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論 第 5 版 (共著) (著書・その他) 1. JA ひろしま (機関誌) (共著) 2. 米のおいしさ味百選「編者」(共著) 3. 本学の教育に対する卒業生の意識 (共著) 4. 生涯健康で心豊かな町づくりをめざしてー子どもの健康実態調査実施事業ー (共著)

	5. Food Habits in Later Life A Cross Cultural Study, (Differences in Nutrient Intake among the Japanese Centres Yokohama, Okazaki, Hiroshima, Kumamoto.) (共著) 6. 身体運動は老化による免疫能の低下をどの程度防げるか (共著) 7. スポーツ医学による障害防止および強化トレーニングガイド「指導書」(共著) 8. ケアページ (共著) (学術論文等) 1. 肝障害ラットの栄養状態改善に及ぼす分離大豆たん白質の効果 (査読有) 2. 長期静脈栄養施行時の栄養状態及び腸管機能の維持に対するグルタミン及び分岐鎖アミノ酸添加輸液の効果 (査読有)「筆頭論文」 3. メトトレキセート障害小腸に及ぼすアラニルグルタミン添加輸液の効果 (査読有) 4. 身体運動は加齢に伴う免疫能の低下をどの程度防げるか (査読有) 5. Physical activity and immune senescence in men (査読有) 6. The IUNS cross-cultural study of "Food Habits In Later Life"- an Overview of key findings (査読有) 7. 保育園児の生活実態と健康生活への提言－(1) 家庭の食事について－「筆頭論文」(査読有) 8. 保育園児の生活実態と健康生活への提言－(2) 離乳について－「筆頭論文」(査読有) 9. 国体選手の健康管理に関する研究－(1) 高校生のカヌー・ボクシング・テニス選手の栄養摂取状況－「筆頭論文」(査読有) 10. スポーツ選手の健康管理に関する研究－(1) 栄養調査方法の検討－「筆頭論文」(査読有) 11. 青年期の健康管理に関する研究－食習慣と体脂肪率の関係(1)－「筆頭論文」(査読有) 12. 保育園児の生活実態と健康生活への提言-(3) 食物アレルギーについて-「筆頭論文」(査読有) 13. 朝食摂取状況別にみたスポーツ選手の身体状況と体力ならびに栄養摂取状況 (査読有) 14. アマチュアスポーツ選手の体格と栄養摂取状況－(1)体力レベルからの分析－ (査読有) 15. 高校生運動選手の体力レベル別にみた食品摂取状況と栄養摂取状況「筆頭論文」(査読有) 16. 高校生女子中・長距離選手の貧血改善・予防のための鉄摂取の試み「筆頭論文」(査読有) 17. 小学生の朝食の欠食に及ぼす生活要因について (査読有) 18. 小規模給食での運動選手の食事管理－選手の体格の調節および疲労軽減-「筆頭論文」(査読有) 19. 粉末寒天摂取による血糖上昇抑制および高脂血症予防効果 (査読有) 20. 若年者の知的および身体活動の向上に寄与する朝食摂取に関する研究 (査読有) 21. ”地産地消”を基本とした郷土料理の良さ－魚の脂肪組成からの検証－ (査読有) 22. グァバ葉抽出茶の糖類分解酵素活性阻害ならびに消化管輸送およびグルコース吸収抑制による血糖値上昇抑制作用 (査読有) 23. 緑茶カテキン摂取による体脂肪低減効果 (査読有) 24. Effect of Starvation-Refeeding Status on Cholesterol Metabolism in Rats Fed High-Cholesterol Diet (査読有) 25. 児童に対する栄養教育方法の一考案－保護者の子どもの健康づくりに対する意識からの検討－ (査読有) 26. 児童の朝食摂取状況と生活リズムとの関係 (査読有) 27. Effects of starvation-refeeding conditions on cholesterol metabolism in rats fed high fat diet containing different fats (査読有) 28. Effects of cholestyramine and phytosterol on cholesterol metabolism in the starvation-refeeding rats (査読有) 29. Effects of High-Fat Diets Containing Different Fats on Cholesterol Metabolism in Starvation-Refeeding Rats (査読有) 30. Dietary Green Tea Powder Supplementation Reduces Body Fat Accumulation and Improves Insulin Resistance in Rats 31. Effect of Intake Order of Rice, Meat, and Vegetables on Postprandial Blood Glucose Level in Healthy Young Individuals 32. Effect of simultaneous intake of rare sugars allitol and D-allulose on intra-abdominal fat accumulation in rats (査読有)
--	---

	33. Long-Term Whole-Body Vibration Stimulus Decreases Body Fat Accumulation in Rats Fed a High-Fat Diet (査読有) 34. Severe Carbohydrate-restricted Diet Shortens the lifespan of Spontaneously Diabetic (査読有) 35. Effects of Carbohydrate-restricted Diet on Postprandial Plasma Glucose Levels and Insulin Resistance in Streptozotocin-induced Diabetic Rats (査読有) 36. Effect of Carbohydrate-Restricted Diet on Glucose Tolerance in Streptozotocin-Induced Diabetic Rats (査読有) 37. Dietary Epigallocatechin Gallate Worsens Rat Liver Injury Induced by a High-Fat Diet and Ethanol Consumption (査読有) 38. Anti-Obesity Effects of a Combination of Whole-Body Vibration Stimulus and Dietary D-Allulose on Rats Fed a High-Fat Diet (査読有) 39. Effects of Dietary Allitol and d-Allulose on Body Fat Accumulation and Cecal Short-Chain Fatty Acid Production in Rats Fed a High-Fat Diet (査読有) 40. Effects of D-allulose on body fat accumulation in rats fed severely carbohydrate-restricted diets containing beef tallow or soybean oil (査読有) 41. 発酵ハト麦エキスがラットの非アルコール性脂肪肝に及ぼす影響 (査読有) 42. Effects of dietary allitol on the cecal microbiota profile and butyric acid production in high-fat diet-induced obese rats (査読有)
学会及び社会における活動等	日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本食育学会、日本機能性食品医用学会 (表彰) 社団法人広島県栄養士会会長表彰 日本栄養士会会長表彰 全国栄養士養成施設協会表彰 厚生労働大臣表彰

教員名	宮崎和人	学位	博士（文学）	職名	特別専任教授
-----	------	----	--------	----	--------

担当科目	日本語 E、日本語 F、日本語 G、日本語 H	
専門分野	日本語学	
最終学歴	平成 14 年 3 月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 修了
これまでの主な経歴	昭和 63 年 1 月 平成 3 年 4 月 平成 4 年 4 月 平成 7 年 4 月 平成 17 年 7 月 平成 18 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 7 年 4 月 令和 8 年 4 月 令和 8 年 4 月 令和 8 年 4 月	国立新居浜工業高等専門学校 専任講師 広島修道大学人文学部 専任講師 広島修道大学人文学部 助教授 岡山大学文学部 助教授 岡山大学文学部 教授 岡山大学社会文化科学研究科 教授 岡山大学社会文化科学学域 教授 岡山大学文学部 学部長（令和 4 年 3 月まで） 放送大学 客員教授（現在に至る） 岡山大学特命教授（研究）（現在に至る） 岡山大学名誉教授（現在に至る） 岡山学院大学特別専任教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 新日本語文法選書 4 モダリティ、共著、くろしお出版、平成 14 年 6 月 2. 現代日本語の疑問表現―疑いと確認要求―、単著、ひつじ書房、平成 17 年 2 月 3. 現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ、共同執筆、日本語記述文法研究会編、くろしお出版、平成 15 年 11 月 4. 現代語文法概説、共著、井島正博編、朝倉書店、令和 2 年 11 月 （学術論文等） 1. 「～ダロウ」の談話機能について、単著、査読付、国語学 175、国語学会、平成 5 年 12 月 2. 否定疑問文の述語形態と機能―「(ノ)デハナカッタカ」の位置づけの検討―、単著、査読付、国語学 194、国語学会、平成 10 年 9 月 3. 確認要求表現としての「ダロウネ」、単著、査読付、日本語科学 6、国立国語研究所、平成 11 年 10 月 4. 確認要求表現の体系性、単著、査読付、日本語教育 106、日本語教育学会、平成 12 年 7 月 5. 認識的モダリティとしての〈疑い〉―「ダロウカ」と「ノデハナイカ」―、単著、査読付、国語学 52-3、国語学会、平成 13 年 9 月 6. まちのぞみ文について―「シタイ」と「ショウ」―、単著、日本語文法の新地平 2、益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編、くろしお出版、平成 18 年 10 月 7. 動詞「限る」の中止形―その後置詞化をめぐる―、単著、査読付、国語語彙史の研究 29、国語語彙史研究会編、和泉書院、平成 21 年 3 月 8. 認識的モダリティの意味と談話的機能、単著、ひつじ意味論講座 4 モダリティⅡ：事例研究、澤田治美編、ひつじ書房、平成 24 年 6 月 9. 品詞性をめぐって、単著、査読付、日本語文法 15-2、日本語文法学会、平成 27 年 9 月 10. 分析的な表現手段の存在意義―可能性の形式をめぐる―、単著、形式語研究の現在、藤田保幸・山崎誠編、和泉書院、平成 30 年 5 月 11. モダリティーの主観化について―〈必要〉を表す文の場合―、単著、場面と主体性・主観性、澤田治美・仁田義雄・山梨正明編、ひつじ書房、平成 31 年 4 月 12. 可能表現の研究をめぐる、単著、招待、国語と国文学 97-10、東京大学国語国文学会、令和 2 年 10 月 （その他） 1. 新版 日本語教育事典、項目執筆、日本語教育学会編、大修館書店、平成 17 年 10 月 2. 日本語文法事典、項目執筆、日本語文法学会編、大修館書店、平成 26 年 7 月 3. 日本語大事典、項目執筆、佐藤武義・前田富祺編集代表、朝倉書店、平成 26 年 11 月 4. 日本語学大辞典、項目執筆、日本語学会編、東京堂出版、平成 30 年 10 月	
学会及び社会における活動等	（所属学会）日本語学会、日本言語学会、日本語文法学会 （学会委員歴等）日本語学会編集委員・常任査読委員、日本言語学会評議員、日本語文法学会評議員・学会誌委員・大会委員	

教員名	吉長智恵	学位	博士（文学）	職名	教授
-----	------	----	--------	----	----

担当科目	日本語 A、日本語 B、日本語 C	
専門分野	言語学、日本語学、日本語教育学	
最終学歴	平成 12 年 3 月	岡山大学大学院文化科学研究科（人間社会文化学専攻）博士課程修了
これまでの主な経歴	昭和 57 年 4 月 平成 2 年 2 月 平成 4 年 6 月 平成 6 年 7 月 平成 18 年 4 月 平成 20 年 4 月 令和 7 年 4 月	日綿実業株式会社（現双日株式会社）入社（平成元年 6 月まで） 国際協力事業団筑波インターナショナルセンター非常勤講師（平成 4 年 3 月まで） ポーランド国立ヤギェウォ大学言語学部東洋語学研究所日本学科（Uniwersytet Jagiellonski Zaklad Japonistyki）客員講師〔国際交流基金派遣日本語教育専門家〕（日本語）（平成 6 年 6 月まで） 山陽学園短期大学・山陽学園大学講師・准教授・教授・特任教授（令和 7 年 3 月まで） 広島国際大学心理科学部・大学院心理科学研究科非常勤講師（大学：平成 23 年 9 月まで。大学院：平成 22 年 4 月～平成 23 年 9 月まで） 放送大学客員准教授（平成 20 年～平成 22 年 3 月まで。平成 23 年 4 月～27 年 3 月まで） タイ王国国立チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座（Chulalongkorn University Faculty of Arts Eastern Language Department Japanese Section）常勤講師（令和 8 年 3 月まで）
これまでの主な研究業績	（著書） 『日本語の談話におけるフィラー』（2002）くろしお出版 単著 『新版 基礎から学ぶ日本語表現法』（2006）大学教育出版 共著 『ドラマ やまとなでしこで日本語を学ぼう！』（2011）ふくろう出版 共著 『研究社 日本語口語表現辞典（第 2 版）』（2020）研究社 監修・分担執筆 （学術論文等） “Czesc poczatkowe i koncowe listow polskich i japonskich(analiza kontrastywna)”（「ポーランド・日本の手紙における決まり言葉の対照分析」）（1994）<i>Jezyk Polski</i> LXXIV 4-5（査読付）共著 「高校生の日本文化のとらえ方と異文化適応度－韓国・オーストラリア・日本の調査結果をもとに－」（2007）『日本学報』第 71 輯（査読付）共著 「ソチオリンピックの選手談話における日韓比較」（2018）『スポーツ言語学研究』第 3 号（査読付） 「バンコクで見られる日本語表記についての一考察」（2026）『第 2 回タイ国日本語教育国際シンポジウム』ポスターセッション（査読付）単著	
学会及び社会における活動等	- スポーツ言語学会理事、研究会：講演、シンポジウム：パネリスト - ディベート甲子園ジャッジ - 日本国際教育交流協会エリア・レップ - 岡山県内外日本語・日本語教育関係講師（「やさしい日本語講座」「岡山県国際交流協会子ども日本語学習サポーター養成講座」「ボランティア日本語教師養成講座」等） - 外国人生徒・中国帰国生徒等の高校入試を応援する有志の会 岡山市・岡山県担当者 - 国内外卓球競技会審判 - TOKYO2020 オリンピック大会ボランティア	

教員名	尾崎 聡	学位	文学修士	職名	副学長・教授
-----	------	----	------	----	--------

担当科目	倉敷学、地域活性化論、高梁川流域圏の活性化、生活史、 道徳・特別活動・総合的な学習の時間	
専門分野	哲学	
最終学歴	昭和 61 年 3 月	岡山大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了
これまでの主な経歴	昭和 62 年 11 月 平成元年 4 月 平成 8 年 4 月 平成 12 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 18 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 29 年 4 月	岡山女子短期大学非常勤講師（平成元年 3 月まで） 岡山女子短期大学講師（平成 8 年 3 月まで） 岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に校名変更）助教授（平成 14 年 3 月まで） 島根県立大学非常勤講師（民俗文化論 担当）（現在に至る） 川崎医療短期大学非常勤講師（文化人類学 担当）（現在に至る） 倉敷芸術科学大学非常勤講師（生活と文化 担当）（平成 16 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科（平成 16 年 4 月人間情報学科に名称変更）助教授（平成 18 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科教授（平成 19 年 3 月まで） 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科教授（平成 24 年 3 月まで） 岡山短期大学幼児教育学科教授（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科 主任教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（著書） 1.『建部町史 民俗編』 2.『美作の護法祭』 3.『上齋原村史 民俗編』 4.『牛窓町史 民俗編』 5.『長船町史 民俗編 』 6.『祭礼行事 第36巻 岡山県』 7.『倉敷市史 8（自然・風土・民俗）』 8.『金光町史 民俗編』 9.『井原市史・民俗編』 10.『金光町史 本編』 11.『奥津町の民俗』 12.『井原市史第1巻通史編』 13.『岡山県の会陽の習俗』 14. 岡山県の歴史シリーズ 図説倉敷・総社の歴史 15. 年中行事大辞典 16.「Made in KOJIMA」第1章「児島の歴史」 （学術論文） 民俗学・人文科学方法論関係 1. ディルタイの精神科学における「意味(Sinn)」「意義(Bedeutung)」のカテゴリーの成立 2. ディルタイの精神科学方法論―「理解」概念の発展― 3. 人生設計の学の体系構築に向けて―報告その① ライフヒストリーについて― 4. ディルタイ解釈学の内的成立過程 5. 岡山城石垣の構築諸年代 6. 日本倫理における神と仏―神仏習合における日本の人間関係 ― 7. 写真で見る岡山の民俗「シン垣と防塁」（付）高屋城付近の鳥瞰図 8. 戦乱の世をいかに戦ったか（付）匠ヶ城縄張り図 9. 「岡山の中世石塔の特色と民俗学的諸問題」―小米石・豊島石の異形石塔、和泉砂岩の一石五輪、花崗岩の畿内式石塔をめぐって― 10. 「現代倫理の諸問題と倫理学講義（古典倫理から現代倫理へ）」その①比較歴史民族学的視点から生命倫理を考察する 11. 「現代倫理の諸問題と倫理学講義 その②」映像人類学的考察の試み：ミッシェル・フーコー『狂気の歴史』『監獄の誕生』の世界をフランシス・コッポラ版『ドラキュラ』（原作 B・ストーカー）に見出す 12. 「歴史的・民俗的景観図作成の試み」―中国山地最奥部の谷筋に見る中世的生活の痕跡（苫田ダム水没地区調査から）―（付）苫田ダム水没地区歴史的・民俗的景観図 13. 古石塔の立つ光景（古墓地、家系伝承、先祖顕彰） ～歴史的民俗的景観図作成の試み	

	その②～ 14. 「土居」考 ～歴史的・民俗的景観図作成の試み その③～ 15. 備中高松合戦前哨戦における秀吉の陣城「鍛冶屋山城」－伝承と軍記録と遺構－ 16. 「城山」について ～歴史的・民俗的景観図作成の試み その④～ 17. 城郭研究及び軍記研究から見た備中忍山城合戦と合戦場の諸城 －（附）忍山城に相対する陣城「信倉城」の縄張図下書き（光畑克己氏遺作） 18. 土居の景観（土居の伝承と地中から出現した土居）～歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑤～ 岡山学院大学・岡山短期大学紀要 19. 井原市の中世山城 20. 尼子勢力掃討戦における毛利氏の城郭に関する一考察 ～備中高屋城（岡山県井原市） および高屋城合戦（永禄 12 年）を例に～ 21. 備中井原の土居について一言説と実在性－（～歴史的・民俗的景観図作成の試み その ⑥～） 22. 「歴史的・民俗的景観を記述することの人間存在論的意義について、苫田ダム水没地区を 事例に）～歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑦～」 23. 地域アイデンティティ創出と伝説的世界の時空間 ～北条早雲の里の景観～ （歴史 的・民俗的景観図作成報告 その①） 24. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その①～対象について（改訂の歴史か ら） 25. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その②指導法について （遊びの場面 の言葉がけ等から）
学会及び社会 における活動 等	岡山大学哲学・倫理学会会員（現在に至る） 岡山民俗学会会員（現在に至る） 同学会理事（平成 16 年 4 月～現在に至る）、同学会誌 編集委員（平成 9 年 4 月～現在に至 る） 日本宗教民俗学会会員（現在に至る） 岡山大学日本思想史研究会会員（現在に至る） 日本幼少児健康教育学会会員（現在に至る） 倉敷市市民講座において講師として奉仕活動 岡山民俗学会理事（現在に至る） 倉敷市立天城幼稚園学校評議員（現在に至る） 倉敷市文化財保護審議会委員（現在に至る） 倉敷市文化財保護審議会会長（現在に至る）

教員名	原田俊孝	学位	修士（経営学）	職名	教授
担当科目					
専門分野	経営学、情報処理、キャリアデザイン				
最終学歴	平成 23 年 3 月	大東文化大学大学院経営学研究科経営学専攻（博士前期課程）			
これまでの主な経歴	平成 23 年 4 月 平成 25 年 3 月 平成 25 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 7 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科 助教 学校法人原田学園評議員（現在に至る） 岡山学院大学・岡山短期大学 学園主事・総務課長（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科 講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学 事務部長（現在に至る） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学 准教授・副学長（令和 7 年 3 月まで） 学校法人原田学園理事（令和 7 年 11 月まで） 学校法人原田学園副理事長（令和 7 年 3 月まで） 学校法人原田学園理事長（令和 7 年 10 月まで） 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科 教授（現在に至る） 岡山学院大学・岡山短期大学 学長（令和 7 年 11 月まで）			
これまでの主な研究業績	(学術論文等) 1. 短期大学のキャリアガイダンスにおけるシステム認識プロセスの適用の一考察 2. 学校教育における情報機器の活用と課題 3. 岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 4. Society 5.0 への取り組み（1）—岡山短期大学幼児教育学科での実践—（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 5. Society 5.0 への取り組み（2）—岡山短期大学幼児教育学科での実践—（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号）				
学会及び社会における活動等	日本キャリアデザイン学会				

教員名	津村哲司	学位	農学修士	職名	准教授
-----	------	----	------	----	-----

担当科目	食品学各論、食品学各論実験Ⅰ・Ⅱ、 食品加工学Ⅰ・Ⅱ、食品加工学実習、食品品質管理論、食品分析学	
専門分野	食品加工	
最終学歴	平成 3 年 3 月	香川大学大学院農学研究科食品学専攻修了（ 修第 2 9 5 号 ）
これまでの主な経歴	平成 3 年 4 月	瀬戸内短期大学 食物栄養学科 助手（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論等）
	平成 4 年 4 月	瀬戸内短期大学 食物栄養学科 講師（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論等）
	平成 11 年 4 月	瀬戸内短期大学 食物栄養学科 助教授（食品加工学・同実習、バイオテクノロジー概論食品学・生化学実験等）
	平成 19 年 4 月	学校教育法の改正により准教授となる
	平成 22 年 4 月	瀬戸内短期大学閉学により退職
	平成 22 年 4 月	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科非常勤講師（食品学各論・同実験、食品加工学）「平成 26 年 3 月まで」
	平成 22 年 4 月	四国医療専門学校非常勤講師（栄養学）
	平成 24 年 4 月	香川短期大学非常勤講師（栄養学、生化学等）「現在に至る」
平成 26 年 4 月	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任准教授「現在に至る」	
これまでの主な研究業績	（著書）	
	1 Production of D-psicose from D-taritol,D-tagatose or D-galactitol by Alkalidenes sp. 701B	
	2 Pseudomonas cichorii ST-24 株による D-galactitol あるいは D-tagatose からの D-sorbose の生産	
	3 Fusarium solani PM-1 の糖質に対する資化性に関する研究	
	4 「讃岐うどん」の嗜好性に関する分析的研究	
	5 学生を対象とした緑茶についての調査	
	6 アロエ・ベラ（Aloe Barbadensis Miller）の一般食品成分	
	7 病態別にみたさぬきうどんを含む理想的献立	
	8 ミラクルフルーツの錠剤食品への応用	
	9 ミラクルフルーツのタブレット化技術の改良について	
	10 ミラクリンを含む味覚修飾用可食性フィルムの開発	
	11 食生活改善に向けた新手法の開発-味覚教育からのアプローチ-	
	12 味覚教育が学生の食意識に及ぼす影響	
13 ギムネマ 1 人 1 鉢栽培による味覚への意識向上ー愛知中学校 2 年生での教育活動についてー（調査報告）		
学会及び社会における活動等	日本うどん学会 正会員 平成 17 年より理事 平成 22 年より監事「現在に至る」 日本味と匂学会 正会員「現在に至る」 日本食育学会 正会員「現在に至る」 （委員の委嘱又は社会における活動等） 四国 B 級ご当地グルメ連携協議会 幹事「現在に至る」	

教員名	平野 聡	学位 資格等	学士（栄養学） 修士（臨床栄養学） 管理栄養士免許 栄養サポートチーム専門 療法士	職名	准教授
-----	------	-----------	---	----	-----

担当科目	キャリアガイダンス、キャリアガイダンス（管理栄養士）、フード・ビジネス経営、 アクティブラーニングⅡ、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、 臨床栄養学実習、臨床栄養学演習、臨床栄養臨地実習、総合演習		
専門分野	臨床栄養学		
最終学歴	平成 20 年 3 月 令和 3 年 3 月	岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 卒業 川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科 臨床栄養学専攻 修士課程 修了	
これまでの主な経歴	平成 20 年 4 月 平成 22 年 5 月 平成 22 年 10 月 平成 22 年 11 月 平成 29 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 7 年 4 月	株式会社ザグザグ 株式会社富士薬品 医療法人社団島谷病院 管理栄養士 島谷病院副診療部栄養科 責任者 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 助教 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科 准教授（現在に至る）	
これまでの主な研究業績	（学術論文） 1. 老人クラブに所属する地域在住高齢者における栄養状態（その他） 1. 嚥下食の成形についての報告 2. 当院の食事提供への取り組み 3. 難治性下痢症状に対しペクチン含有濃厚流動食を使用した介入の報告 4. 地域包括ケアシステムにおける管理栄養士の役割についての検討 5. 特別養護老人ホームにおける嚥下調整食のテクスチャー評価 6. 特別養護老人ホームにおける嚥下調整食分類 2013 の導入に関する試み 7. 地域在住高齢者の栄養状態の実態 8. 地域在住高齢者のサルコペニアの該当者率と食品摂取との関連		
学会及び社会における活動等	日本臨床栄養代謝学会 日本栄養士会 岡山県栄養士会 日本栄養改善学会 川崎医療福祉学会		

教員名	塩津敦子	学位 資格等	学士(栄養学) 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	特別専任講師
-----	------	-----------	--------------------------------	----	--------

担当科目	学校栄養指導論Ⅰ・Ⅱ、事前・事後指導、栄養教育実習、教育の方法及び技術	
専門分野	栄養学	
最終学歴	平成 11 年 3 月	岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科 卒業
これまでの主な経歴	平成 11 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 26 年 4 月 平成 27 年 4 月 平成 30 年 4 月 平成 30 年 11 月 令和 3 年 4 月	阿哲郡大佐町立学校給食共同調理場（現 新見市立大佐学校給食共同調理場）勤務 （学校栄養技師） 総社市立総社西学校給食共同調理場 勤務 （学校栄養技師） 倉敷市立味野中学校 勤務 （学校栄養技師→学校栄養主任） 倉敷市立万寿小学校 勤務 （栄養教諭） 倉敷市教育委員会 保健体育課 勤務 （主任） 倉敷市立連島南小学校 勤務 （栄養教諭） 平成 29 年度末退職 倉敷市立富田小学校 新規採用学校栄養職員研修指導員（倉敷市教育委員会非常勤講師） 川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科 勤務 （非常勤講師） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	(研究発表) 1. 小教研倉敷支会健康教育部研究発表会 (共同研究) 1. 小教研倉敷支会健康教育部研究発表会	
学会及び社会における活動等	岡山県学校栄養士会会員	

教員名	岡田只士	学位	修士（農学） 博士（理学）	職名	講師
-----	------	----	------------------	----	----

担当科目	アクティブラーニングⅠ、基礎化学、生化学Ⅰ・Ⅱ、基礎栄養学、基礎栄養学実験		
専門分野	食品科学、応用健康科学、実験動物学		
最終学歴	2006年3月	北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻 博士課程 修了	
これまでの主な経歴	2006年5月	財団法人 精神・神経科学振興財団 リサーチ・レジデント（2008年3月まで）	
	2008年4月	川崎医科大学 神経内科学教室 研究員（2011年8月まで）	
	2011年9月	帯広畜産大学 原虫病研究センター 特任研究員（2015年3月まで）	
	2015年4月	中部大学 生命健康科学部 生命医科学科 期限付研究嘱託（2016年3月まで）	
	2016年5月	宮崎大学 医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野 研究員（2018年3月まで）	
	2019年4月	富山県立大学 くすりのシリコンバレーTOYAMA 嘱託研究員(2020年3月まで)	
	2020年4月	富山県立大学 工学部 医薬品工学科 特定助教（2021年3月まで）	
	2021年4月	公益財団法人ときわ会 先端医学研究センター（RIIM） 研究員（2023年3月まで）	
	2021年4月	医療創生大学 地域連携センター 特任講師（2023年3月まで）	
	2023年4月	岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 講師	
2025年4月	岡山学院大学 デジタル生活学部 フードマネジメント学科 講師		
これまでの主な研究業績	学術論文		
	1. Signal Transduction Cascade between EvgA/EvgS and PhoP/PhoQ Two-Component Systems of Escherichia coli（査読付）		
	2. Nagelamides A-H, New Dimeric Bromopyrrole Alkaloids from Marine Sponge Agelas Species（査読付）		
	3. Analysis of isoform specific function of PP1 catalytic subunits in mammalian cells using siRNA（査読付）		
	4. The oncoprotein I-2PP2A/SET negatively regulates the MEK/ERK pathway and cell proliferation（査読付）		
	5. pp32/I-1PP2A negatively regulates the Raf-1/MEK/ERK pathway（査読付）		
	6. Manzamenones Inhibit T-Cell Protein Tyrosine Phosphatase（査読付）		
	7. Caveolin-3 regulates myostatin signaling. Mini-review（査読付）		
	8. MRL-MpJ 創傷治癒形質導入はデュシェンヌ型筋ジストロフィーモデルマウスの骨格筋病変を改善する（査読付）		
	9. Rapid screening for Japanese dysferlinopathy by fluorescent primer extension（査読付）		
	10. Endoplasmic reticulum stress response in P104L mutant caveolin-3 transgenic mice（査読付）		
	11. An inhibitor of transforming growth factor beta type I receptor ameliorates muscle atrophy in a mouse model of caveolin 3-deficient muscular dystrophy（査読付）		
	12. A novel dense granule protein, GRA22, is involved in regulating parasite egress in Toxoplasma gondii.（査読付）		
	13. Seroprevalences of Toxoplasma gondii and Neospora caninum in Pet Rabbits in Japan（査読付）		
	14. The inhibitory core of the myostatin prodomain: Its interaction with both type I and II membrane receptors, and potential to treat muscle atrophy（査読付）		
	15. Mycophenolic Acid and Its Derivatives as Potential Chemotherapeutic Agents Targeting Inosine Monophosphate Dehydrogenase in Trypanosoma congolense.（査読付）		
	16. Kinetic analysis of specific antibodies in serum and urine of experimentally Encephalitozoon cuniculi-infected rabbits.（査読付）		
	17. Canagliflozin, a sodium glucose cotransporter 2 inhibitor, attenuates obesity-induced inflammation in the nodose ganglion, hypothalamus, and skeletal muscle of mice.（査読付）		
	18. Identification and characterization of guanosine 5'-monophosphate reductase of Trypanosoma congolense as a drug target.（査読付）		
19. Restoration of metabolic inflammation-related ghrelin resistance by weight loss（査読付）			

	20. Analysis of peripheral ghrelin signaling via the vagus nerve in ghrelin receptor-restored GHSR-null mice (査読付) 21. Impaired adaptation of energy intake induces severe obesity in aged mice on a high-fat diet (査読付) 22. Repurposing Existing Drugs: Identification of Irreversible IMPDH Inhibitors by High-Throughput Screening (査読付) 23. CREG1 administration stimulates BAT thermogenesis and improves diet-induced obesity in mice (査読付) 24. CREG1 improves diet-induced obesity via uncoupling protein 1-dependent manner in mice (査読付) その他の論文 1. 大腸菌 2 成分制御系 EvgAS による PhoP レギュロンの制御 (修士論文) 2. セリン/スレオニン残基特異的プロテインホスファターゼ 1 型 (PP1) および 6 型 (PP6) 触媒サブユニットの細胞内機能に関する研究 (博士論文) 学会発表 (一部抜粋) 1. 個体レベルにおける分泌型糖タンパク質 CREG1 の作用 2. 高脂肪食で腸と視床下部に生じた炎症と摂食量の連関 3. ビタミン D による新規炎症性腸疾患治療戦略
学会及び社会 における活動 等	日本分子生物学会会員 日本生化学会会員 日本肥満学会会員 日本ビタミン学会会員

教員名	小松正直	学位	修士（理学） 博士（理学）	職名	講師
-----	------	----	------------------	----	----

担当科目	データサイエンスⅠ・Ⅱ、ICTリテラシーⅠ・Ⅱ、プログラミング、情報数学Ⅰ（統計学）、応用数学（食とビジネス）、情報処理基礎、情報処理演習	
専門分野	地震学	
最終学歴	2018年9月	岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻博士後期課程修了
これまでの主な経歴	2018年10月 2019年4月 2019年4月 2023年4月 2025年4月	岡山大学大学院自然科学研究科博士研究員（2019年3月まで） 岡山大学大学院自然科学研究科非常勤研究員（2023年3月まで） 岡山理科大学生物地球学部非常勤講師（2026年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（学術論文） 1. 西南日本の三次元P波減衰構造（査読付） 2. 焼きなまし法による初動発震機構解の決定 3. 沖縄本島における深部地盤のS波速度構造 4. Quasi-Cartesian finite-difference computation of seismic wave propagation for a three-dimensional sub-global model（査読付） 5. Three-dimensional P- and S-wave attenuation structures around the source region of the 2016 Kumamoto earthquakes（査読付） 6. 南西諸島における地震波減衰構造の推定とそれに基づく地震動シミュレーションのための広域地下構造モデルの構築（博士学位論文） 7. 中小規模の島嶼部における深部地盤S波速度構造モデル（奄美諸島・吐噶喇列島編） 8. 時間領域差分法による表層地盤の非線形応答の計算 9. Estimation of seismic attenuation of the Greenland Ice Sheet using 3-D waveform modeling（査読付） 10. メジアンフィルターを用いた 2016 年熊本地震の断層近傍における加速度記録の基線補正と変位波形の推定 11. 地形を考慮した陸海統合 3 次元地震波速度構造モデルを用いた大分県周辺の長周期地震動シミュレーション （その他） [外部資金] 1. 西南日本における三次元地震波減衰構造の推定及び検証 2. American Geophysical Union Fall Meeting 2015 における研究成果の発表 [研究報告書] 1. 沈み込み帯の巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 2. 海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 3. 海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 4. 海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波・津波伝播シミュレーション 5. 地盤の非線形応答を考慮した地震波シミュレーション：強震動予測と震源過程解析 6. 大規模並列地震波シミュレーションに基づく南西諸島における地震発生メカニズムの高精度解析 7. 大規模地震波シミュレーションを用いた 2011 年東北地方太平洋沖地震の震源域構造モデルの波形トモグラフィー 8. 大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析 9. 大規模地震波シミュレーションによる沈み込み帯の波形トモグラフィー：2011 年東北地震震源域と南西諸島域 10. 大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析 11. 大規模地震波シミュレーションによる沈み込み帯の波形トモグラフィー：2011 年東北地震震源域と南西諸島域 12. 大規模地震動シミュレーションに基づく南西諸島域の高精度震源解析 13. 大規模地震波シミュレーションによる沈み込み帯の波形トモグラフィー：2011 年東北地震震源域と南西諸島域 14. 南西諸島における地震波干渉法によるグリーン関数と数値シミュレーションの比較 15. 大規模地震波シミュレーションによる沈み込み帯の波形トモグラフィー：2011 年東北地震震源域と南西諸島域 16. 南西諸島海溝付近の付加帯を含む地盤モデル改良の検討のための地震波動計算	

	[学会発表] 1. 中国・四国地方の三次元 S 波減衰構造 2. 西南日本の三次元地震波減衰構造 3. Three-dimensional Seismic Attenuation Structure Beneath Southwest Japan 4. 沖縄先島諸島における P 波減衰構造 5. 簡便なコーナ周波数 f_c の推定法と減衰量 t^* の決定 6. 長大距離地震波動伝播シミュレーションのための地球の曲率を考慮した計算スキーム 7. 2014 年 3 月 14 日伊予灘稍深発地震の初期段階の破壊過程 8. 南西諸島における三次元地震波減衰トモグラフィ 9. Quasi-Cartesian Finite-Difference Computation of Seismic Wave Propagation for a Three-Dimensional Sub-global Earth Model 10. Three-Dimensional Seismic Attenuation Structure in the Ryukyu Arc, Japan 11. 3 次元及び 2 次元震源イメージングから推定した 2014 年伊予灘稍深発地震の初期段階の破壊過程 12. 南西諸島の広帯域地震波形データを用いたレシーバ関数解析 13. 2015 年大分県南部地震 (Mj5.7) における大分県周辺の長周期地震動シミュレーションと地下構造モデルの検討 14. 焼きなまし法を用いた初動発震機構解の決定 15. 2016 年熊本地震初期破壊過程のイメージング 16. 南西諸島の広帯域地震波形データを用いた S-wavevector レシーバ関数解析 17. 2016 年熊本地震震源域周辺の三次元地震波減衰構造 18. 沖縄本島における深部地盤の S 波速度構造 19. Seismic imaging of receiver functions at virtual receivers in Ryukyu arc, Japan 20. Imaging of Initial Rupture Process of the 2016 Kumamoto, Japan, Earthquake 21. 地震波干渉法を用いた別府湾周辺地域における深部地盤構造モデルの検証 22. 2016 年熊本地震の強震記録を用いた岡山県内のサイト特性の評価 23. アレイ解析による 2016 年 4 月 16 日大分誘発地震の震源の推定 24. S-wave structure in the Nansei Islands, Japan, inferred from microtremor array explorations 25. Early rupture process of the 2016 Kumamoto earthquake inferred from source imaging 26. Three-dimensional P- and S-wave attenuation tomography in the Ryukyu Arc, Japan 27. 地震波減衰トモグラフィから見る 2016 年熊本地震震源域下の流体分布 28. 南西諸島における連続地動記録を用いた雑微動の相互相関解析 29. 別府湾周辺における微動の連続観測記録を用いた深部地盤構造の検証 30. 2 次元線形分散津波方程式の効率的な計算：スキーム編 31. 2 次元線形分散津波方程式の効率的な計算：計算編 32. 遠地津波のための線形分散波方程式を効率的に解く新しい方法 33. 3 次元不均質構造モデルを用いた 2016 年大分県由布で発生した地震の CMT インバージョン 34. 岡山県内の震度観測網, K-NET, KiK-net の観測点におけるサイト増幅特性の抽出 35. 南西諸島における震源スケーリング 36. スペクトル・インバージョンに基づく岡山県内の強震観測点におけるサイト増幅特性 37. 3 次元理論地震波形計算によるグリーンランド氷床の Q 値の推定 38. 津波の非線形分散波方程式を効率的に解く新スキームの開発 39. 地球の曲率を考慮した 3 次元構造モデルに基づく地震動・地殻変動・津波統合シミュレーション 40. 2018 年北海道胆振東部地震の初期段階の破壊過程 41. 中小規模の島嶼部における深部地盤 S 波速度構造モデル (奄美諸島・吐噶喇列島編) 42. Efficient new scheme solving the linear and nonlinear dispersive wave equations for near- and far-field tsunamis 43. Q-factor estimation for Greenland ice sheet using 3-D seismic waveform modeling 44. 南西諸島における P 波・S 波減衰構造 45. 岡山県全域の地盤構造の推定
--	---

	46. ソース・イメージング法を用いた 2019 年山形県沖の地震における初期段階の破壊過程の推定 47. 3 次元不均質構造モデルを用いた 2016 年大分県由布の誘発地震の余震の CMT インバージョン 48. 平面波入射を仮定しないで、地表地震動から地中の入射波を算定する方法 49. 2019 年山形県沖の地震の初期破壊過程 50. 地表の観測記録から平面波入射を仮定しないで地中の地震動分布を求める方法の検討 51. 近地強震波形記録を用いた 2016 年大分県中部の地震の CMT 解析 52. 2D・3D ソースイメージング法を用いた 2018 年北海道胆振東部地震の初期破壊過程の推定 53. 2016 年熊本地震で観測された長周期速度パルス生成に関する理論的解析 54. 強震波形記録と海陸統合 3 次元地下構造モデルを用いた沖縄本島近海で発生した地震の CMT 解析 55. 地表観測記録を用いた地中地震動の推定：深い評価点における検討 56. 2016 年熊本地震で誘発された大分県中部の地震の初動読み取りと震源決定 57. 地表観測記録を用いた地中地震動の推定 (2)：定量的な評価に基づく手法の改良 58. CMT 解による観測点補正值を用いた沖縄本島南東沖の地震の震源再決定 59. 地表観測記録を用いた地中地震動の推定 (3)：任意の深さで推定するための経験式の導入 60. 海水層の重力を考慮した reflectivity 法 (離散化波数法) による近地の津波を含む全波動計算 61. Calculation of Full Nearfield Motion on and Above the Sea Bottom Due to Seismic and Tsunami Waves Excited by an Offshore Earthquake with the Discrete Wavenumber Method 62. 3 成分広帯域連続地動記録を用いた南西諸島における雑微動の相互相関解析によるグリーン関数の抽出 63. 海陸統合 3 次元地下構造モデルに基づく沖縄本島北西沖 (沖縄トラフ下) で発生した地震の FAMT 解析 64. 陸海統合 3 次元地下構造モデルと海底地震計 (S-net) データを用いた東北沖の浅い小地震の短周期波形解析の課題 65. 南西諸島前弧域における付加体を含む地盤構造モデルの改良 66. トカラ列島において発生した地震の FAMT 解析ならびに微小地震を含む震源再決定 67. 南西諸島における雑微動の相互相関解析によるグリーン関数の抽出と地震波速度構造の推定 68. 琉球海溝と日本海溝における全波形トモグラフィに向けた分解能と波形感度の検討
学会及び社会 における活動 等	日本地震学会 日本地球惑星科学連合 物理探査学会 日本地震工学会 Seismological Society of America American Geophysical Union

教員名	氏峰栞里	学位 資格等	博士（健康科学） 栄養士免許 管理栄養士免許 パンシエルジュ検定3級	職名	講師
-----	------	-----------	---	----	----

担当科目	フードコーディネーター、微生物学、食品衛生学Ⅰ・Ⅱ、食品衛生学実験、食品品質管理論、調理学Ⅰ・Ⅱ、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、		
専門分野	栄養学、医歯薬学、調理学		
最終学歴	2017年3月	川崎医療福祉大学 大学院 医療技術学研究科 健康科学専攻 修了	
これまでの主な経歴	2017年4月 2020年10月 2023年4月	九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科 助教（2020年3月まで） 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 助教（2023年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師	
これまでの主な研究業績	（学術論文） 1.（学士論文）消毒薬二酸化塩素の黄色ブドウ球菌に及ぼす影響 2.（修士論文）次亜塩素酸ナトリウムの黄色ブドウ球菌に対する抗菌効果ならびに作用機序に関する検討 3.（博士論文）次亜塩素酸ナトリウムの抗黄色ブドウ球菌作用に関する研究 （査読付き学術論文） 1. Morphological changes in <i>Staphylococcus aureus</i> induced by treatment of sodium hypochlorite. （学会発表） 第57回 日本ブドウ球菌研究会（東京） 第65回 日本細菌学会中国・四国支部総会（徳島） 第28回 日本環境感染学会総会（横浜） 第86回 日本細菌学会総会（千葉） 第69回 日本顕微鏡学会学術講演会（大阪） The 28th International Congress of Chemotherapy (ICC) and Infection（横浜） 第34回 日本食品微生物学会学術集会（東京） 第61回 日本化学療法学会西日本支部総会（大阪） 第31回 中国地区インフェクションフォーラム（岡山） International Microscopy Congress (IMC) 2014（プラハ） 第62回 日本化学療法学会西日本支部総会（岡山） 第11回 日本栄養学教育学会学術集会（岡山）		
学会及び社会における活動等	日本臨床分子形態学会 公益社団法人 日本顕微鏡学会会員 公益社団法人 日本栄養士会 一般社団法人 日本栄養学教育学会 一般社団法人 日本調理科学会		

教員名	堀口のぞみ	学位	修士（教育学）	職名	准教授
担当科目	生涯学習概論、教育原理、教師論、教育制度論、教育課程論、教育課程論及び教育方法・技術論				
専門分野	教育学・教育哲学				
最終学歴	平成 28 年 3 月 令和 3 年 3 月	広島大学大学院教育学研究科教育学専攻博士前期課程修了 修士（教育学） 広島大学大学院 教育学研究科教育学習科学専攻 博士後期課程中途退学			
これまでの主な経歴	平成 28 年 9 月 平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 5 年 4 月 令和 7 年 4 月 令和 8 年 4 月	広島県三次看護専門学校非常勤講師(教育学担当)(平成 28 年 12 月まで) 広島県呉市医師会看護専門学校非常勤講師(哲学担当)(平成 29 年 6 月まで) 日本学術振興会 特別研究員 DC2 社会科学（教育学）(令和 3 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科講師 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科講師（令和 8 年 3 月まで） 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科准教授（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	(学術論文) 1. 後期 H. アレントの思考論における責任概念の位置 2. I. ヤングの正義論の教育学的射程—構造的不正義に関する市民育成の観点から— 3. I.M.ヤングのフェミニスト現象学的身体論の教育学的意義 (学会発表) 1. 未来志向的責任論の教育学的意義—I. ヤングの未来志向的責任論概念を H. アレントの集団責任概念と対峙して— (第 59 回 教育哲学会、東京大学) 2. The Limitation of Hannah Arendt’s Consideration on Thinking (Asian Link of Philosophy of Education) (National Chiayi University, Taiwan) 3. Young’s Reinterpretation of Arendt’s Conception of Collective Responsibility (Asian Link of Philosophy of Education) (Seoul National University, Korea) 4. Iris Young Conception of Political Responsibility (International Postgraduate Roundtable and Research Forum cum Summer School 2018 (The Education University of Hong Kong) (その他) 日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業（KAKEN）特別研究員（DC2） 課題番号:18J13991「現代責任論の責任概念分析とその教育学的意義」 (教育実践記録等) 1. 自治体における栄養教諭配置状況の格差の現状と制度的課題 2. 栄養教諭養成のためのカリキュラム編成における今日的課題				
学会及び社会における活動等	中国四国教育学会会員 教育哲学会会員				

教員名	兼安貴子	学位 資格等	博士（薬学） 薬剤師	職名	講師
-----	------	-----------	---------------	----	----

担当科目	プレゼンテーション、公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
専門分野	医療社会学、医療系薬学、公衆衛生学		
最終学歴	2020 年 3 月	国際医療福祉大学大学院 薬学研究科 医療・生命薬学 専攻 博士課程修了	
これまでの主な経歴	1990 年 4 月 2002 年 1 月 2002 年 5 月 2020 年 4 月 2020 年 4 月 2025 年 4 月 2025 年 7 月	株式会社井田両国堂（株式会社セザンヌ化粧品） メアリーケイコスメティクス株式会社 ノボノルディスクファーマ株式会社 マーケティング本部、営業本部、開発本部 立命館大学 総合科学技術研究機構 医療経済評価・意思決定支援ユニット（CHEERS） 助教（2024 年 9 月まで） 立命館大学生命科学部 生命医科学科・助教（2025 年 3 月まで） 立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所 プロジェクト研究員（2026 年 3 月まで） 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科 講師（現在に至る）	
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 患者報告アウトカム（PRO）使用についてのガイドンス集」（共著） 2. 「PRO 評価指南—概念・測定・解釈から臨床応用まで—」患者参画と QOL の評価と応用（共著） （学術論文） 1. 日本人糖尿病患者における手指機能障害の有無によるフレックスタッチとイノレットの比較検討（査読付） 2. 日本人糖尿病患者および医療従事者を対象としたプレフィルド型インスリン注入器フレックスタッチ、ソロスター、ミリオペンの有用性および選好性の評価（査読付） 3. Cost-effectiveness Analysis of Early Intervention with Insulin for Patients with Type 2 Diabetes Mellitus in Japan（査読付） 4. Cost-Effectiveness of Nab-Paclitaxel and Gemcitabine Versus Gemcitabine Monotherapy for Patients with Unresectable Metastatic Pancreatic Cancer in Japan.（査読付） 5. Perceptions regarding the concept and definition of patient-reported outcomes among healthcare stakeholders in Japan with relation to quality of life: a cross-sectional study.（査読付） 6. How to select and understand guidelines for patient-reported outcomes: a scoping review of existing guidance.（査読付） 7. 糖尿病有痛性神経障害に対する薬物療法の費用効果分析のスコアリングレビュー ～日本での検討への示唆.（査読付） 8. Value and Implementation of Patient and Public Involvement and Engagement in Health Technology Assessment for Japan: implications from systematic searches.（査読付） 9. Obesity effects on the health-related quality of life in Japan: Implications from cross-sectional study.（査読付） 10. Multi-stakeholder use of patient experience data (PED): current state and future opportunities for the application of PED to inform decision-making.（査読付） （学会発表） 1. 日本における 2 型糖尿病合併症の費用分析報告の現状 2. Cost-effectiveness of oral anti-diabetics for the treatment of patients with type 2 diabetes mellitus in Japan 3. 日本やアジアにおける糖尿病治療・介入の医療経済評価-システマティックレビューから見える現状と課題 4. がん薬物療法の日常診療における症状モニタリングの実態とそのデジタル化の認識に関する医療者および患者に対する全国調査 5. 医師の PRO 調査票と ePRO に対する認識と日常診療への導入に関する調査		

	6. がんの日常診療における ePRO による症状モニタリングの有用性の評価および、有害事象と QoL の実態に関するレジストリ研究 (RegiPRO study) 7. Patient preference information for HTA: A rapid review of HTA community perspectives 8. 日本の医療技術評価における患者選好データの 役割：英国との比較から 9. バイオデジタルツイン技術開発へのステークホルダー参画の実践 10. 健康関連 QOL の観点による肥満の経済評価で重視すべき疾患の探索 11. 高齢者への栄養指導と Quality-of-life: アンブレラレビューから見た評価 (主な翻訳) 1. 患者報告アウトカムに関する論文を読み活用するための臨床家向けチェックリスト 2. 非選好型アウトカム尺度から推計した健康状態効用値へのマッピング—ISPOR アウトカム研究班報告実施基準
学会及び社会 における活動 等	所属学会 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR) 日本部 会 日本くすりと糖尿病学会 日本医療・病院管理学会 QOL-PRO 研究会 International Society for Quality of Life Research (ISOQOL) 日本公衆衛生学会 日本栄養治療学会 受賞： Certificate of Excellence: Marketing preparation for Flextouch® (2013 年 2 月)

教員名	石高優子	学位 資格等	準学士（栄養学） 管理栄養士免許 介護支援専門員 糖尿病療養指導士	職名	講師
-----	------	-----------	--	----	----

担当科目	アクティブラーニングⅠ、調理学実習Ⅲ、栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ、 栄養教育管理、総合演習	
専門分野	栄養指導・栄養教育	
最終学歴	1986年3月	川崎医療短期大学 栄養科 卒業
これまでの主 な経歴	1986年4月 1999年11月 2025年4月 2025年10月 2025年11月	医療法人水清会 水島第一病院 副診療部栄養科 医療法人水清会 水島第一病院 副診療部栄養科責任者（2025年3月まで） 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科非常勤講師 医療法人水清会 水島第一病院 退職 岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科専任講師（現在に至る）
これまでの主 な研究業績	（著書） （学術論文） （その他） - 疾患に対する栄養食事指導を年間約 80 回実施。 - 地域の高齢者や企業の現役世代に対し、健康をテーマとした講演を実施。 - 連島公民館の生涯学習で高齢者約 50 人に対し、「高血圧予防の食事」を題材に講演を実施。 - 山九株式会社の社員約 100 人に対し、特定保健指導の一環で「生活習慣病の予防」を題材に講演を実施。 - 第73回日本栄養改善学会学術総会 ポスター発表・共同 高齢者への栄養指導と Quality - of-life:アンブレラレビューから見た評価	
学会及び社会 における活動 等	日本栄養改善学会 日本栄養士会 倉敷市保健福祉功労賞市長表彰 公益社団法人 日本栄養士会表彰	

四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること（4号関係）

（入学者に関する受入方針、入学者数、編入学者数、入学定員・収容定員、在学者数、在籍者数、卒業者数、進学者数、就職者数）

デジタル生活学部フードマネジメント学科

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- 栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士の仕事を理解している。
- 卒業後、管理栄養士として働く意思が強い。
- 卒業後、高梁川流域圏でフードビジネスを通して活躍する意志が強い。
- 数理・データサイエンス・AI教育の修得意識が強い。
- 本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている
- 生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

（令和8年5月1日現在）

入学者数	編入学者数	入学定員・収容定員	在学者数	在籍者数	卒業者数	就職者数	進学者数
5人	0人	40人・160人	40人	41人	20人	19人	0人

五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること（5号関係）

（シラバスや年間の授業の計画の概要）

デジタル生活学部フードマネジメント学科

教育課程編成・実施の方針

数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた、高梁川流域圏で活躍する管理栄養士になるために必要な3つの力を汎用的学習成果として獲得させるデジタル生活人材養成科目にヒューマン・サービス科目、フードマネジメント科目及びコミュニケーション力科目を編成し、実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための専門教育科目を編成し、実施する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」を専門教育科目の中に科目指定し、実施する。栄養教諭一種免許状を得るための教職課程を編成し、実施する。

希望者に対して、フードスペシャリスト資格認定証、専門フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書などが取得できるカリキュラムも編成し、実施する。

シラバス

シラバスは次の作成規則により本学公式ウェブサイトで公開している。

シラバス作成規則

（趣旨）

第1条 この規則は、岡山学院大学及び岡山短期大学の教育方針に従い、各学科の教育課程（カリキュラム）の授業科目のシラバス（教育計画）の作成について定める。

（シラバスの様式）

第2条 シラバスの様式は様式－1のとおりとする。

(教育計画年度)

第3条 シラバスには年度表示して、使用する学生の入学年度を明確にする。

(科目名)

第4条 教育課程（カリキュラム）に編成されている授業科目名を記入する。

(授業回数・単位数)

第5条 当該授業科目の授業回数と単位数を記入する。

(担当教員)

第6条 授業科目を担当する教員名を記入し、学生からの質問受付の方法として e-mail アドレス及びオフィスアワーを記入する。

2 e-mail アドレスがない場合は無記入とする。

3 オフィスアワーの記入は、時間設定の代わりに在室時は何時でも可としてもよい。

(教育目標と学生の学習成果)

第7条 教育目標は教育課程編成・実施の方針及び学生の学習成果について明確に記入する。

(授業の進め方)

第8条 授業の進め方にある講義・演習・実験・実習・実技は、いずれかを四角で囲う。その際、別紙-1, 2 の授業形態を参照する。

2 予習・復習は、1 単位 45 時間の計算によって、講義：30 時間、演習：15～30 時間を課すよう授業時間以外の学習を加えること。その際、内容ごとに必要な学習時間の目安を含めて記入すること。

3 テキストの指定は授業内容に相応しいもので、高額にならないものを選択すること。

(学習評価の方法)

第9条 学習成果を明示し、「達成基準」ではなく、学習成果を測定する方法及び評価点の配点が学生に分かるよう記入する。

2 課題（試験や提出物等）に対するフィードバックの方法を記入する。

(注意事項)

第10条 参考図書等を記述し学生が学習しやすくする。

(授業回数別教育内容)

第11条 1 回から 15 回の授業内容を記入する。

2 学習内容の箇条書きではなく、「何を学び何が出来るようになるか」について教育目標と学習成果の整合性を図って記入する。該当回の授業で何を学習したかを欠席者にも分かるように記入する。

3 定期試験を含まない。

[illegible]

フードマネジメント学科授業科目の授業形態

デジタル生活人材養成科目 授業形態

授業科目	講義	演習	実験実習実技
消費者行動論	○		
日本国憲法	○		
地域活性化論	○		
高梁川流域圏の活性化	○		
ICT リテラシーⅠ		○	
ICT リテラシーⅡ		○	
プログラミング		○	
データサイエンスⅠ	○		
データサイエンスⅡ	○		
応用数学(食とビジネス)	○		
情報数学Ⅰ(統計学)	○		
フード・ビジネス経営	○		

フードテックと実践	○		
管理栄養士国家試験専門基礎分野 集中ゼミ		○	
英語Ⅰ		○	
英語Ⅱ		○	
日本語A(語彙・表記)		○	
日本語B(語彙・表記)		○	
日本語C(聴解・会話)		○	
日本語D(聴解・会話)		○	
日本語E(文法・読解)		○	
日本語F(文法・読解)		○	
日本語G(小論文・レポート)		○	
日本語H(小論文・レポート)		○	
体育理論	○		
体育実技			○
プレゼンテーション		○	
キャリアガイダンス(管理栄養士)			

専門教育科目 授業形態

授業科目	講義	演習	実験 実習 実技	管理 栄養 士
基礎化学	○			○
基礎生物学	○			○
アクティブラーニングⅠ		○		○
アクティブラーニングⅡ		○		○
食文化論	○			
フードコーディネート	○			
食料経済	○			
公衆衛生学Ⅰ	○			○
公衆衛生学Ⅱ	○			○
公衆衛生学Ⅲ	○			
健康管理論	○			○
社会福祉概論	○			○
解剖生理学Ⅰ	○			○
解剖生理学Ⅱ	○			○
解剖生理学実験Ⅰ			○	○
解剖生理学実験Ⅱ			○	○
運動生理学	○			○
生化学Ⅰ	○			○
生化学Ⅱ	○			○
生化学実験			○	○
病理学	○			○
微生物学	○			○
食品学総論Ⅰ	○			○
食品学総論Ⅱ	○			
食品学総論実験			○	○
食品学各論	○			○

食品学各論実験Ⅰ			○	○
食品学各論実験Ⅱ			○	
食品加工学Ⅰ	○			○
食品加工学Ⅱ	○			
食品加工学実習			○	○
食品品質管理論	○			
食品分析学	○			
調理学Ⅰ	○			○
調理学Ⅱ	○			
調理学実習Ⅰ			○	○
調理学実習Ⅱ			○	○
調理学実習Ⅲ			○	○
食品衛生学Ⅰ	○			○
食品衛生学Ⅱ	○			
食品衛生学実験			○	○
基礎栄養学	○			○
基礎栄養学実験			○	○
運動栄養学	○			○
応用栄養学	○			○
栄養アセスメント	○			○
応用栄養学実習			○	○
栄養教育論Ⅰ	○			○
栄養教育論Ⅱ	○			○
栄養教育管理	○			○
栄養教育論実習Ⅰ			○	○
栄養教育論実習Ⅱ			○	○
臨床栄養学Ⅰ	○			○
臨床栄養学Ⅱ	○			○
臨床栄養学Ⅲ	○			○
臨床栄養学実習			○	○
臨床栄養学演習		○		○
公衆栄養学Ⅰ	○			○
公衆栄養学Ⅱ	○			○
公衆栄養学実習			○	○
給食経営管理論Ⅰ	○			○
給食経営管理論Ⅱ	○			○
給食経営管理実習Ⅰ			○	○
給食経営管理実習Ⅱ			○	○
総合演習		○		○
給食経営管理実習事前事後			○	○
給食経営管理臨地実習Ⅰ			○	○
給食経営管理臨地実習Ⅱ			○	○
公衆栄養臨地実習			○	○
臨床栄養臨地実習			○	○
卒業研究Ⅰ		○		
卒業研究Ⅱ		○		

教職課程(栄養教諭一種免許状)

免許法施行規則に定める科目又は科目区分		授業科目	講義	演習	実験 実習 実技
栄養に係る教育に関する科目		学校栄養指導論Ⅰ	○		
		学校栄養指導論Ⅱ	○		
第66条の6に定める科目	日本国憲法	日本国憲法	○		
	体育	体育理論	○		
		体育実技			○
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ		○	
		英語Ⅱ		○	
	情報機器の操作	ICTリテラシーⅠ		○	
		ICTリテラシーⅡ		○	
	栄養・教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	○	
教師論			○		
教育制度論			○		
教育心理学			○		
特別支援の方法と理解				○	
教育課程論			○		
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳・特別活動・総合的な学習の時間	○		
		教育の方法及び技術	○		
		生徒指導論	○		
		教育相談	○		
教育実践に関する科目		事前・事後指導			○
		栄養教育実習			○
	教職実践演習（栄養教諭）		○		

令和8年度の年度の授業の計画

学年・学期・休業日

学年 4月1日～翌年3月31日

学期 前期 4月1日～9月10日、後期 9月11日～翌年3月31日

休業日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

春期休業 3月21日～3月31日

夏期休業 8月1日～9月10日

冬期休業 12月22日～翌年1月7日

令和8年度

前期(4月1日～9月10日)		後期(9月11日～3月31日)	
4月	4月1日入学式 4月2日～7日オリエンテーション(新入生) 4月2日授業開始(新入生以外)	10月	10月17日有城祭 10月27日短大開学記念日

	4月8日授業開始（新入生） 4月2日～9日履修登録（新入生以外） 4月8日～14日履修登録（新入生）		
5月	5月31日大学開学記念日	11月	11月6日学友会役員選挙
6月	6月27日後援会理事会	12月	12月21日授業終了
7月	7月24日定期試験開始 7月30日定期試験終了	1月	冬期休業12月22日～翌年1月7日 1月8日授業開始 1月22日～1月29日定期試験
8月		2月	
9月	9月4日～9月8日オリエンテーション期間 9月11日後期授業開始 9月11日～9月17日履修登録	3月	3月19日卒業式 春期休業 3月21日～3月24日（学則では31日） 3月25日～3月31日オリエンテーション（在学生）

六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（6号関係）

（必修科目、選択科目及び自由科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位）

デジタル生活学部フードマネジメント学科

卒業認定・学位授与の方針

学位：学士（栄養学）

修業年限：4年

卒業の要件

総修得単位 124 以上

イ）デジタル生活人材養成科目については、22 単位以上。

ロ）学科専門科目については、70 単位以上。

管理栄養士国家試験受験資格については「専門基礎分野」38 単位、「専門分野」44 単位の総単位数 82 単位最低限必要。

栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士になるため、デジタル生活人材養成科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

1. 学位授与に必要な単位を修得している。
2. 卒業後社会人として求められる汎用的学習成果及び専門的学習成果を獲得している。

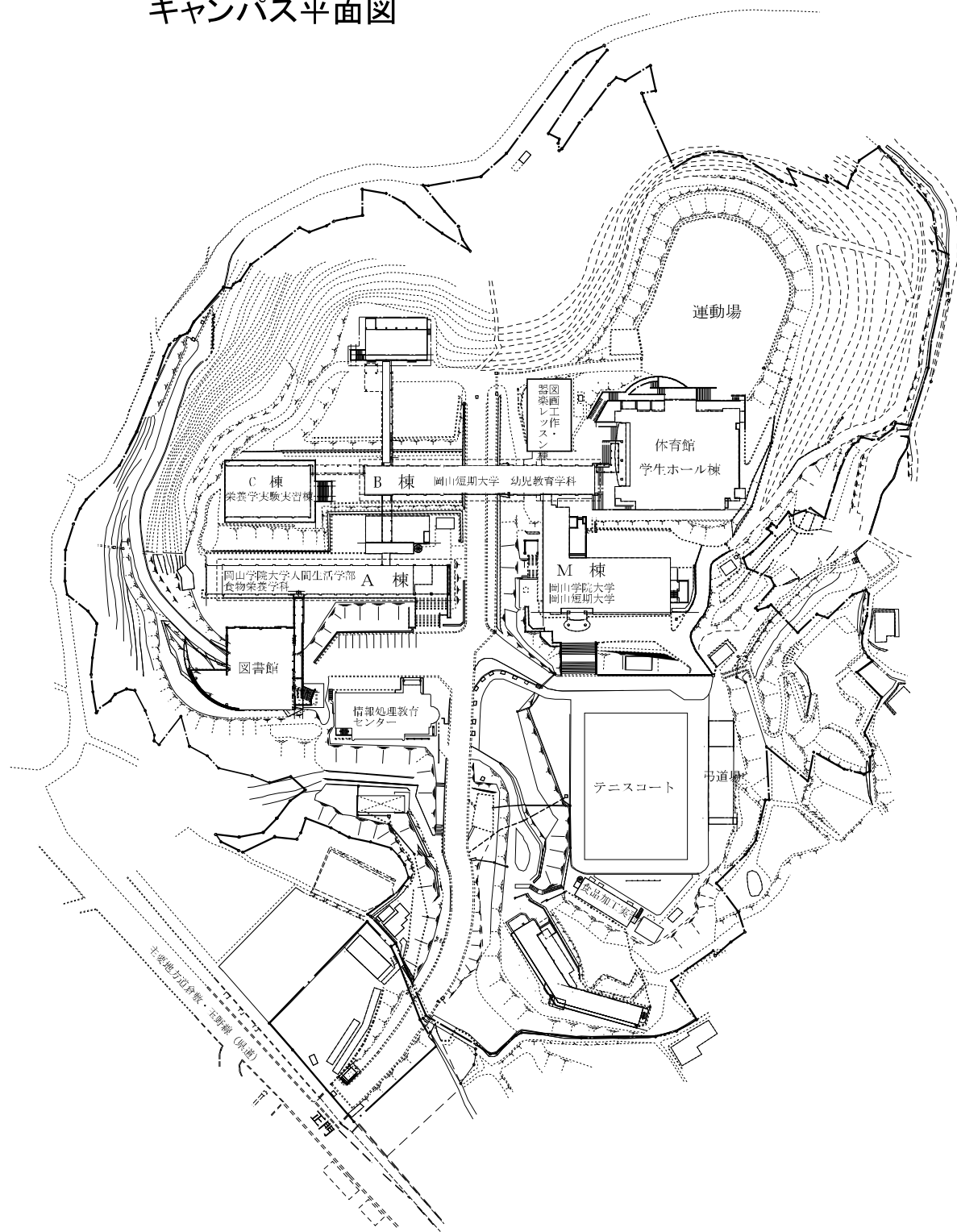
尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること（7号関係）
（キャンパス概要、運動施設概要及びその他の学習環境、主な交通手段等）

新幹線を利用すれば、広島からも大阪からも1時間程度。
倉敷市周辺は、東西南北の高速自動車道が交差し、
山陰、山陽、四国のどこからでもアクセスが整っています。



岡山学院大学・岡山短期大学 キャンパス平面図



八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること（８号関係）

岡山学院大学デジタル生活学部フードマネジメント学科

学費は１年を２期に分けて１期分（半年分）を每期開始後１０日以内に前納するものとする。

令和８年度学費一覧表			
種別	納入時期 入学手続き時	毎学年度	
		前期	後期
入学金	250,000 円		
授業料		350,000 円	350,000 円
教育充実費		100,000 円	100,000 円
施設設備費		70,000 円	70,000 円
合 計	250,000 円	520,000 円	520,000 円

以上の外に、下表の金額が必要である。なお諸費変更の場合、在学生にも新規金額を適用する。

後援会費	37,000 円（毎年）
卒業寄附	（一口任意）一口 20,000 円
学友会費	8,000 円（毎年 7,000 円＋入会金 1,000 円）

九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること（9号関係）

休養室

学生の保健衛生管理を目的として休養室を設置している。休養室は、学務部学生課が管理・運営している。学生の身体状況に応じ、本学教員の医師に相談の上、外来受診等にも供する場合も生じる。

本学の校医は財団法人倉敷成人病センターの健診センター長にお願いしているので入学後の健康診断の結果も当センターに依頼し学生の実習等における健康診断書の発行も本学で行っている。

生活指導担当教員および環境衛生担当教職員

本学では教員の中から任命されたクラスメンターが学生の心身ともに健康な生活支援を行っている。また、環境衛生担当教職員で構成する環境衛生部は学内の清掃と美化に努め、学内の規律を保つための厚生補導に努める。このことは入学式後の新入生オリエンテーションや新学期の新2次生へのオリエンテーションでも学生に呼びかけ、注意を促すのが通例である。

学友会

学友会は各クラブの統括だけでなく、健全で規律ある学生生活の発展にも寄与する任務がある。特に厚生部は各クラスから選出される評議員と各学科教員から1人ずつ任命される顧問によって構成され、学生の意見を広く汲み上げる部門であり、学園のために貢献してきた歴史がある。

フードマネジメント学科キャリア支援室

大学の専任教員が管理栄養士チーム、公務員、企業就職、進学チームにわかれ、キャリア支援をしている。

情報処理教育センター

自由に使えるPCを配置し、授業以外の時間帯における学生の情報処理学習を支援している。多くの学生がWeb検索や、レポート作成などに利用している。

図書館

図書のレファレンスサービスの他に貸し出し用ノートPCが利用できるようにしてありインターネットを介しての情報学習もできるように配慮している。

経済的支援

日本学生支援機構の奨学金「第一種奨学金」「第二種奨学金」を希望する学生に対し、学年始めのオリエンテーション時に学務課学生係が制度の説明から書類作成手続き及び学生生活の指導(特に経済面)までを行っている。

本学独自の奨学金制度としては「岡山学院大学特別奨学生」の制度がある。これは総合型選

抜、学校推薦型選抜、一般選抜で合格し入学手続きを完了した者で、特別奨学生を希望する者の中から学業優秀者を選抜し、在学中の授業料半額免除を可能にしている。

また家庭の事情などにより在学中に授業料納付が困難になった学生の申し出により成績・人物を審査し、合格者を優待生として授業料の半額免除を実施する「岡山学院大学A種奨学生」がある。

入学後、本学より半径 2km 圏内で一人暮らしをされる学生に対して、毎月の家賃 10,000 円を補助する家賃補助制度がある。

経済的支援体制としてのアルバイト紹介などの業務を学務部学生課が行っている。

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（学校教育法施行規則第172条2第2項関係）

デジタル生活学部フードマネジメント学科

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、自律した信念のある社会人となることである。数理・データサイエンス・AI 教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士になるために、学科の教育課程(デジタル生活人材養成科目および専門教育科目)の学習をととして、次の学習成果を獲得する。

汎用的学習成果

デジタル生活人材養成教育科目の学習をととして、

- ①消費者行動等の生活系学習や地域活性化メソッド等の高梁川流域事業学習から、高梁川流域圏市町で活躍するための人間生活(ヒューマン・サービス)力を獲得する。
- ②数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベルの学習及びキャリア実践学習を通して、デジタル生活社会の様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神を身に付けたフードマネジメント力を獲得する。
- ③異文化コミュニケーション及び他者とのコミュニケーションメソッドの学習を通して、自ら計画し行動することができるキャリア的思考に基づいたデジタル生活コミュニケーション力を獲得する。

専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をととして、専門知識と専門的能力を獲得する。

- ①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識を獲得する。
- ②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を獲得する。
- ③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を獲得する。
- ④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。
- ⑤子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、食に関する指導(学校における食育)をする能力を獲得する。